

第2回
國學院大學卒業生調査報告書
(I. 概要)

目 次

第1章 調査概要.....	3
調査の目的.....	3
調査の概要.....	3
能力フレーム.....	4
留 意 点.....	4
第2章 調査結果サマリー.....	7
1. 保有能力（PROG）のまとめ.....	7
2. 分析の構造と視点.....	16
3. リテラシー分析.....	18
4. コンピテンシー分析.....	24
5. 学修科目等.....	30
6. 学修の成果.....	33
7. 満足度とその理由（不明を除く）.....	38
8. 総合満足度にご貢献する項目の考察.....	40

第 1 章 調査概要

第1章 調査概要

調査の目的

國學院大學での学びが、卒業後どのように活かしているかを検証するため、複数年度に渡る卒業生を対象として、アンケートを実施する。在学中の学修経験を振り返り、現在の仕事や生活との関係の上に、何が有効に働いているのかなどを把握し、本校における学びの在り方について検討する材料とする。

調査の概要

調査対象、方法及び配布回収の状況等は以下のとおりである。

図表 1-1 調査概要

調査名	第2回 國學院大學卒業生調査
調査対象	本学の卒業生のうち、平成18年度、23年度、25年度、26年度に卒業した全学部の方(二部の卒業生も含む。ただし卒業時において日本国内の在住を把握している者。)
調査方法	インターネット上のアンケートに各自アクセスして回答。調査ページのアドレスはハガキに記載し、全員に郵送配布(平成18年度、23年度、26年度)。平成25年度卒業生についてはEメールにて調査依頼。
抽出方法	該当年度の卒業生について全数抽出
調査期間	平成29年6月17日～7月9日(23日間)
配布回収	配布:7,921票 有効配布:7,842票(宛先不明79。) 回収:902票 有効回収率:11.5%
質問項目	問1 属性/問2 学修科目等/問3 学修の成果/問4 大学の満足度/問5 就業状況 /問6 学生時代に身についたと思う能力/問7 本校および在校生へのメッセージ/ 問8 インタビューへのご協力依頼

(配布回収の内訳)

図表 1-2 卒業年度別配布回収内訳

学部	配布数	有効配布数	回収数	有効回収数
文学部	2,814	2779	437	15.7%
経済学部	2,031	2010	135	6.7%
法学部	1,935	1925	215	11.2%
神道文化学部	705	697	65	9.3%
人間開発学部	436	431	50	11.6%
合計	7,921	7,842	902	11.5%

図表 1-3 学部別配布回収内訳

年度	配布数	有効配布数	回収数	有効回収数
平成18年度卒業生	1,411	1,398	160	11.4%
平成23年度卒業生	1,931	1,905	243	12.8%
平成25年度卒業生	2,418	2,412	240	10.0%
平成26年度卒業生	2,161	2,127	259	12.2%
合計	7,921	7,842	902	11.5%

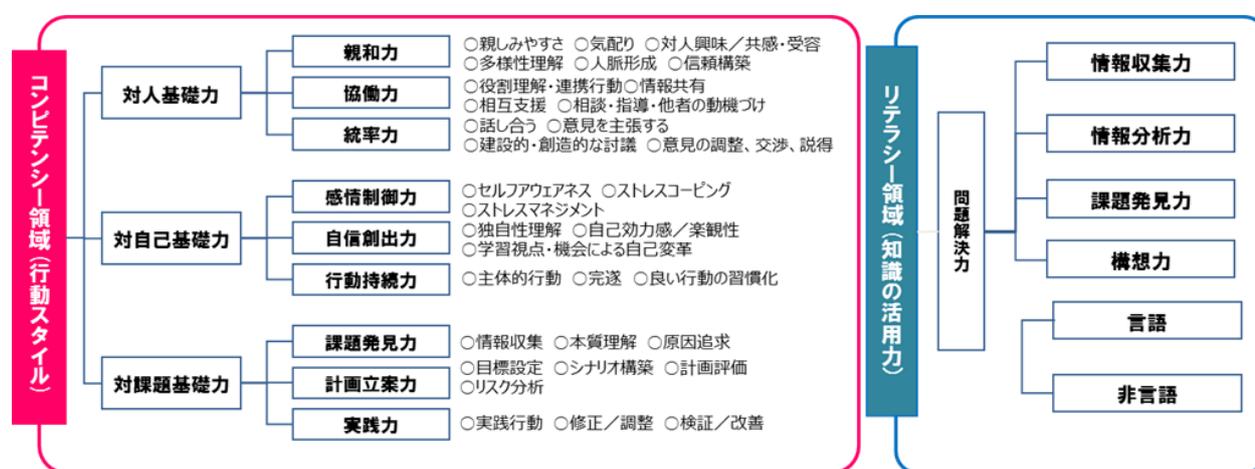
能力フレーム

本調査・分析企画のベースとなる能力要素は、下記の「社会で求められる能力要素」を活用する調査・分析企画となっている。

この能力要素の特徴は、

- ① すでに産業界からのニーズを検証済み。
 - ② ダブリ・重なりがなく、体系として既に纏めている。
 - ③ 独自のライブラリーとして、詳細な要素の内容／記述化されたレベル内容を構築済み。
- となっており、下記の能力要素の構築時の知見やノウハウを活用した企画となっている。

図表 1-4 リテラシーとコンピテンシーの領域



留意点

- グラフ中の n は回答者の総数、クロス集計にある () 内の数字は各項目の回答者数である。
- 小数点第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある。
- クロス集計においては、表側の項目は無回答を除いているため、合計した値は全体に一致しないものがある。
- 図表タイトルの S A はシングルアンサーの略で、選択肢から 1 つだけ選ぶ設問である。MA はマルチアンサーの略で、複数選択する設問である。F A はフリーアンサーの略で、自由記入形式で回答する設問である。
- 帯グラフのうち、実線の赤枠 で囲った部分は、選択肢を足した合計が 50%を超えるものである。

第2章 調査結果サマリー

第2章 調査結果サマリー

1. 保有能力（PROG）のまとめ

卒業生に対し調査した39の能力（リテラシー：12個／コンピテンシー：27個）について、「よく当てはまる」4ポイント、「当てはまる」3ポイント、「やや当てはまる」2ポイント、「全く当てはまらない」1ポイントとし、加重平均により点数を算出した。

図表2-1 リテラシーとコンピテンシーの内訳

	能力	対応するPROG	
リテラシー	1 様々な情報の特性が理解できる	情報収集力	
	2 課題に応じて、どのような情報を収集すべきか判断できる		
	3 収集した情報の信頼性を適切に判断できる		
	4 図表から、的確にその内容を読み取れる	情報分析力	
	5 文章から、的確にその内容を捉えられる		
	6 図表や文章から読み取った内容を、論理的に整理できる		
	7 様々な観点から現状を捉え、問題点を見出せる	課題発見力	
	8 問題点を客観的に整理できる		
	9 どの問題から解決すべきか、適切に優先順位をつけられる		
	10 様々な観点から問題の解決策を考えられる	構想力	
	11 諸々の条件を踏まえ、問題の解決に有効な方策を選択できる		
	12 問題解決の方策に沿って、具体的な行動計画を立てられる		
コンピテンシー	1 誰に対しても、和やかに接することができる	親和力	親しみやすさ／気配り
	2 人から相談された際に、相手の話を真剣に聞ける		対人興味・共感・受容／多様性理解
	3 相手の信頼を得て、豊かな人間関係を築くことができる	協働力	人脈形成／信頼構築
	4 チームの中で担うべき自分の役割を自覚できる		役割理解・連携行動
	5 周囲と連携を取り、協力しながら仕事を進められる	統率力	情報共有／相互支援
	6 相手の状況に応じて、適切なアドバイスができる		相談・指導・他者の動機づけ
	7 周りの人と意見が異なる場合でも、自分の意見を述べられる		話し合う／意見を主張する
	8 建設的な議論となるように、チームに働きかけができる	感情制御力	建設的・創造的な討議
	9 相手の立場を考慮しながら、意見調整を進められる		意見の調整、交渉、説得
	10 プレッシャーがかかる場面でも、落ち着いて対応できる		セルフアウェアネス
	11 ストレスにうまく対処し、感情をコントロールできる	自信創出力	ストレスコーピング
	12 難しい課題に対しても前向きに取り組める		ストレスマネジメント
	13 自分の長所と短所を的確に把握している	行動持続力	独自性理解
	14 自分の強みや持ち味を活かすべく行動できる		学習視点・機会による自己変革
	15 未経験のことにも、臆せず取り組める		自己効力感／楽観性
	16 自発的に行動できる	課題発見力	主体的行動
	17 責任感を持ってやり遂げる		完遂
	18 常に主体的に学び続ける姿勢を持っている		良い行動の習慣化
	19 課題に応じ、適切に情報を収集できる	計画立案力	情報収集
	20 客観的な視点でデータを整理・分析し、問題点を把握できる		本質理解
	21 問題が生じた原因について、様々な観点から考えられる		原因追究
	22 問題解決に向けて、明確な目標を立てられる	実践力	目標設定
	23 問題解決に向けて、目標に沿った具体的な計画を立てられる		シナリオ構築
	24 問題解決に向けて、立案した計画の実現性を吟味できる		計画評価／リスク分析
	25 問題を解決すべく計画を推進しながら、想定外の事態に応じて行動を修正できる	実践行動	修正／調整
	26 問題を解決するためにとった行動を振り返り、課題を把握できる		検証／改善
	27 把握した課題を念頭におき、同様の事態に対して適切に対応できる		実践行動

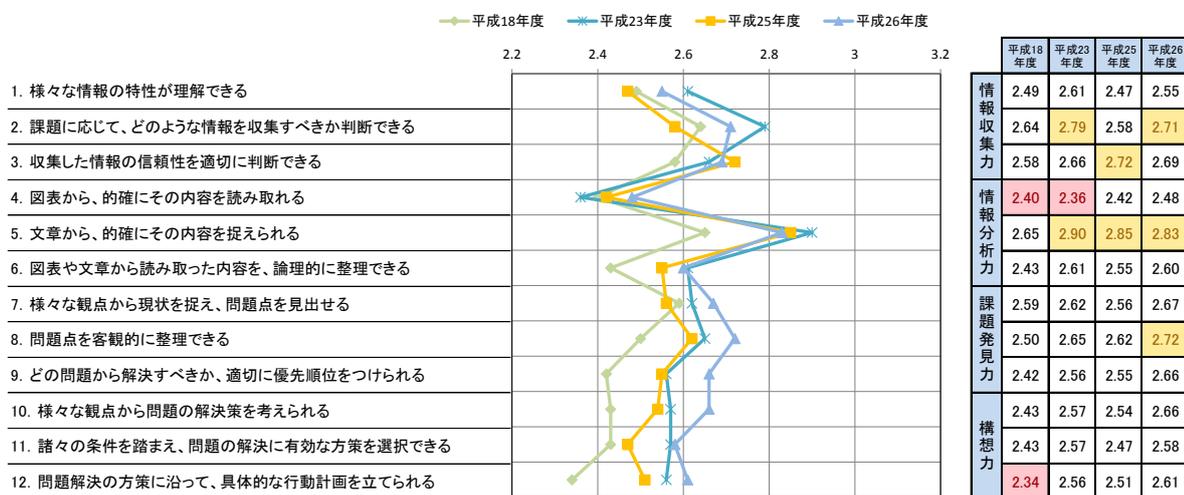
(1) 卒業年度別リテラシー比較

リテラシーを卒業年度別にみると、卒業生が「身についた」という認識が高い項目は「文章から、的確にその内容を捉えられる」で、いずれの年度の卒業生においても最も高くなっている。

一方、逆に低い項目は、平成 23、25、26 年度においては「図表から、的確にその内容を読み取れる」が、平成 18 年度のみ「問題解決の方策に沿って、具体的な行動計画を立てられる」が最も低くなっている。

全体的な傾向として情報分析力については、強みと弱みが混在したかたちになっている。課題発見力と構想力は概ね平成 18 年度卒業生の評価が低く、平成 26 年度卒業生の評価が高くなっている。

図表 2-2 卒業年度別リテラシー比較

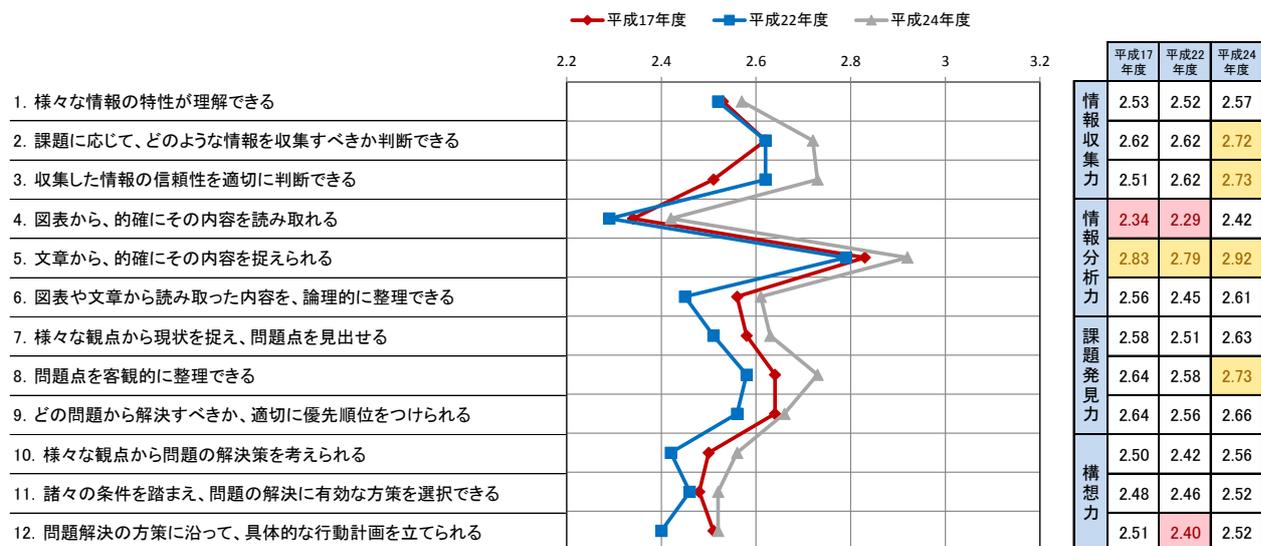


(注) 2.4ポイント以下に赤、2.7ポイント以上に黄色で網掛けしている。

<加重平均の求め方>

「よく当てはまる」4ポイント、「当てはまる」3ポイント、「やや当てはまる」2ポイント、「全く当てはまらない」1ポイントで、平均を抽出。また、5択の場合は5ポイントから1ポイントで計算。以下、同様。

[参考] 平成28年度 第1回卒業生調査



(注)2.4ポイント以下に赤、2.7ポイント以上に黄色で網掛けしている。

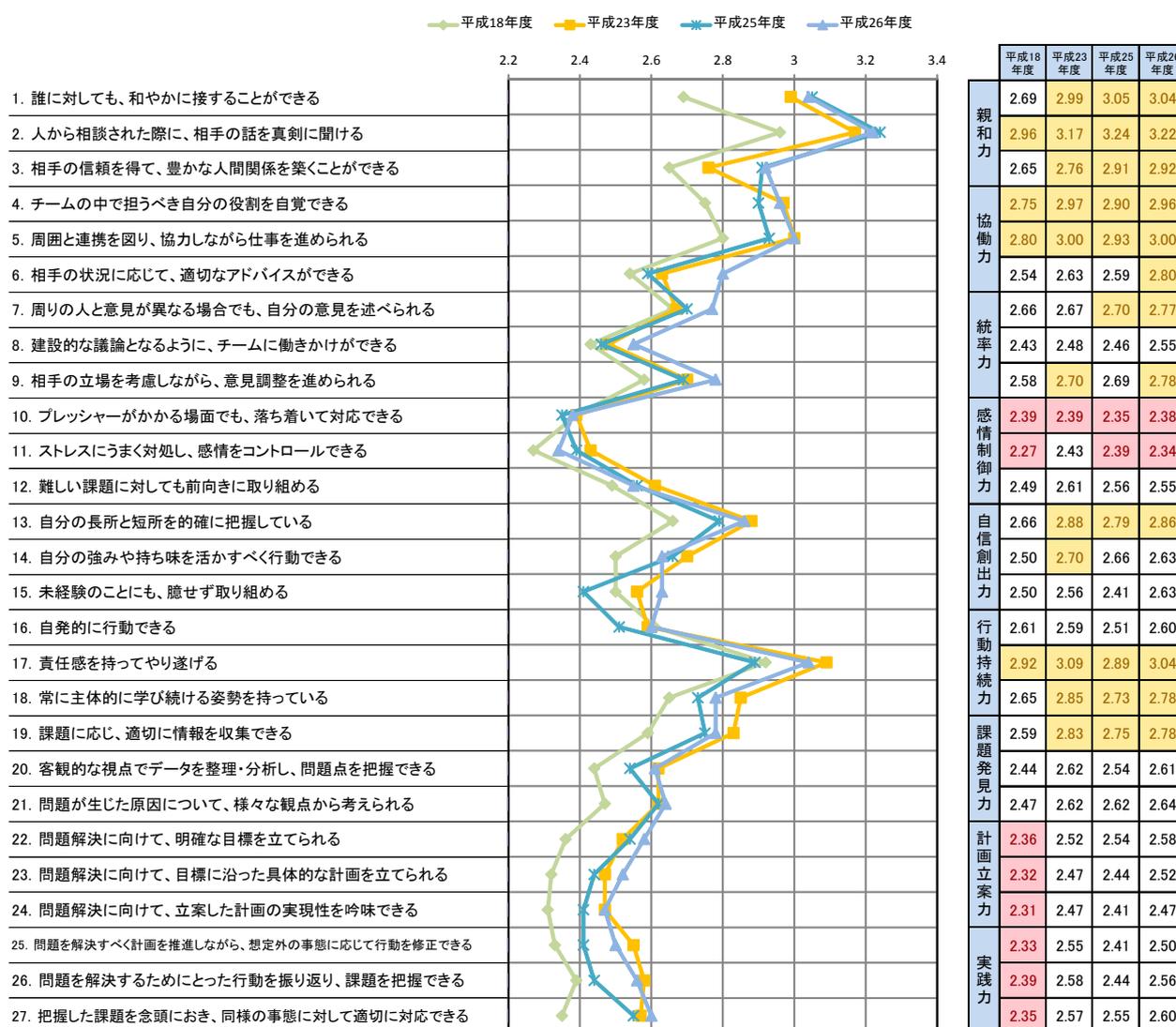
(2) 卒業年度別コンピテンシー比較

コンピテンシーを卒業年度別にみると、「人から相談された際に、相手の話を真剣に聞ける」がいずれの卒業年度においても最も高くなっている。「チームの中で担うべき自分の役割を自覚できる」、「周囲と連携を図り、協力しながら仕事を進められる」、「責任を持ってやり遂げられる」も共通して全ての年度で評価が高く、チームと協力してやり遂げることを得意と感じている傾向がみられる。

逆に、低い項目は、「プレッシャーがかかる場面でも、落ち着いて対応できる」や「ストレスにうまく対処し、感情をコントロールできる」といった、感情制御力に関する項目である。

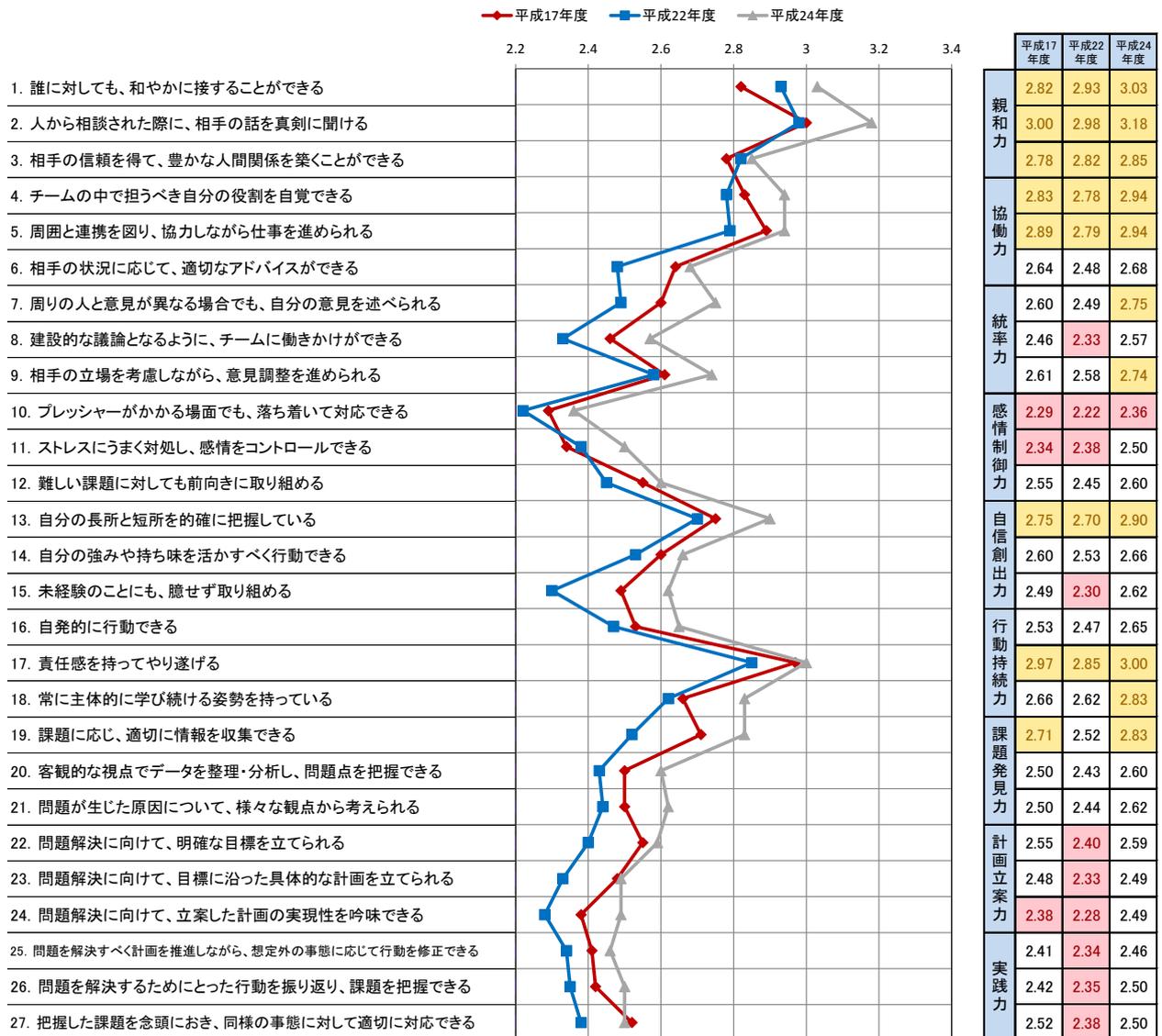
全体的な傾向として、平成18年度卒業生は、評価が低くなっている。

図表2-3 卒業年度別コンピテンシー比較



(注)2.4ポイント以下に赤、2.7ポイント以上に黄色で網掛けしている。

[参考] 平成28年度 第1回卒業生調査



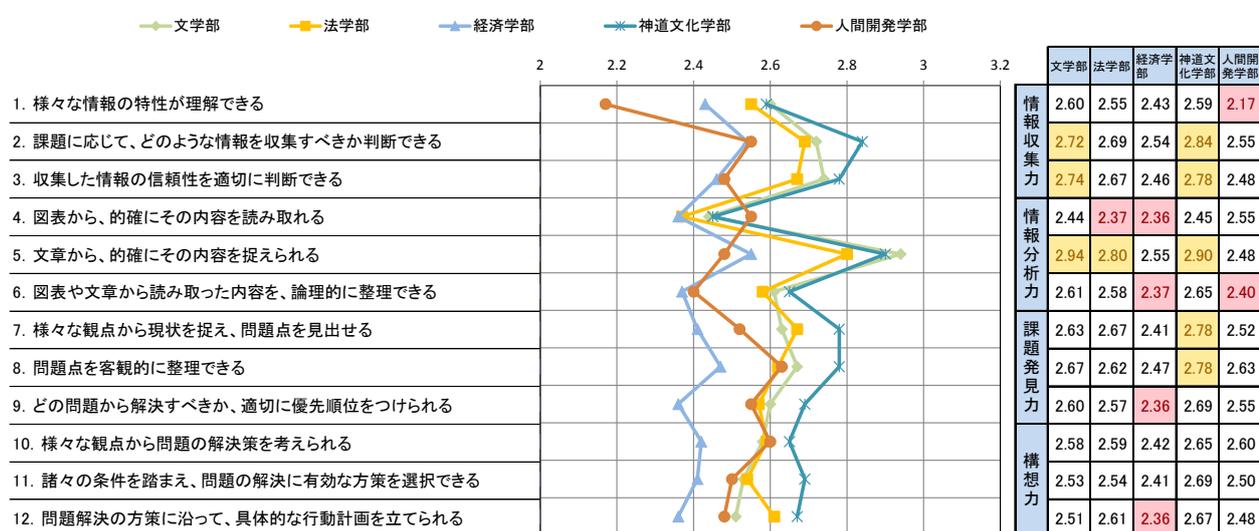
(注) 2.4ポイント以下に赤、2.7ポイント以上に黄色で網掛けしている。

(3) 学部別リテラシー比較

リテラシーを学部別にみると、文学部、法学部、経済学部、神道文化学部は「文章から、的確にその内容を捉えられる」が最も高い。人間開発学部は「問題点を客観的に整理できる」が最も高くなっている。

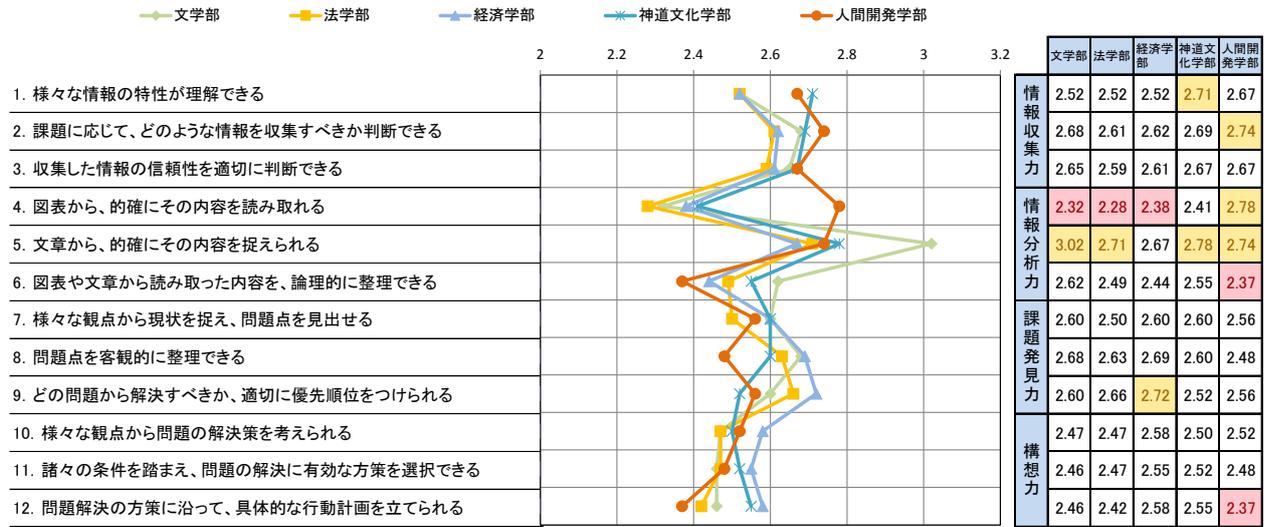
逆に評価が低いのは文学部、法学部、神道文化学部は「図表から、的確にその内容を読み取れる」、人間開発学部は「様々な情報の特性が理解できる」、経済学部は「図表から、的確にその内容を読み取れる」、「どの問題から解決すべきか適切に優先順位をつけられる」、「問題解決の方策に沿って、具体的な行動計画を立てられる」が、それぞれ最も低くなっている。

図表 2-4 学部別リテラシー比較



(注) 2.4ポイント以下に赤、2.7ポイント以上に黄色で網掛けしている。

[参考] 平成 28 年度 第 1 回卒業生調査



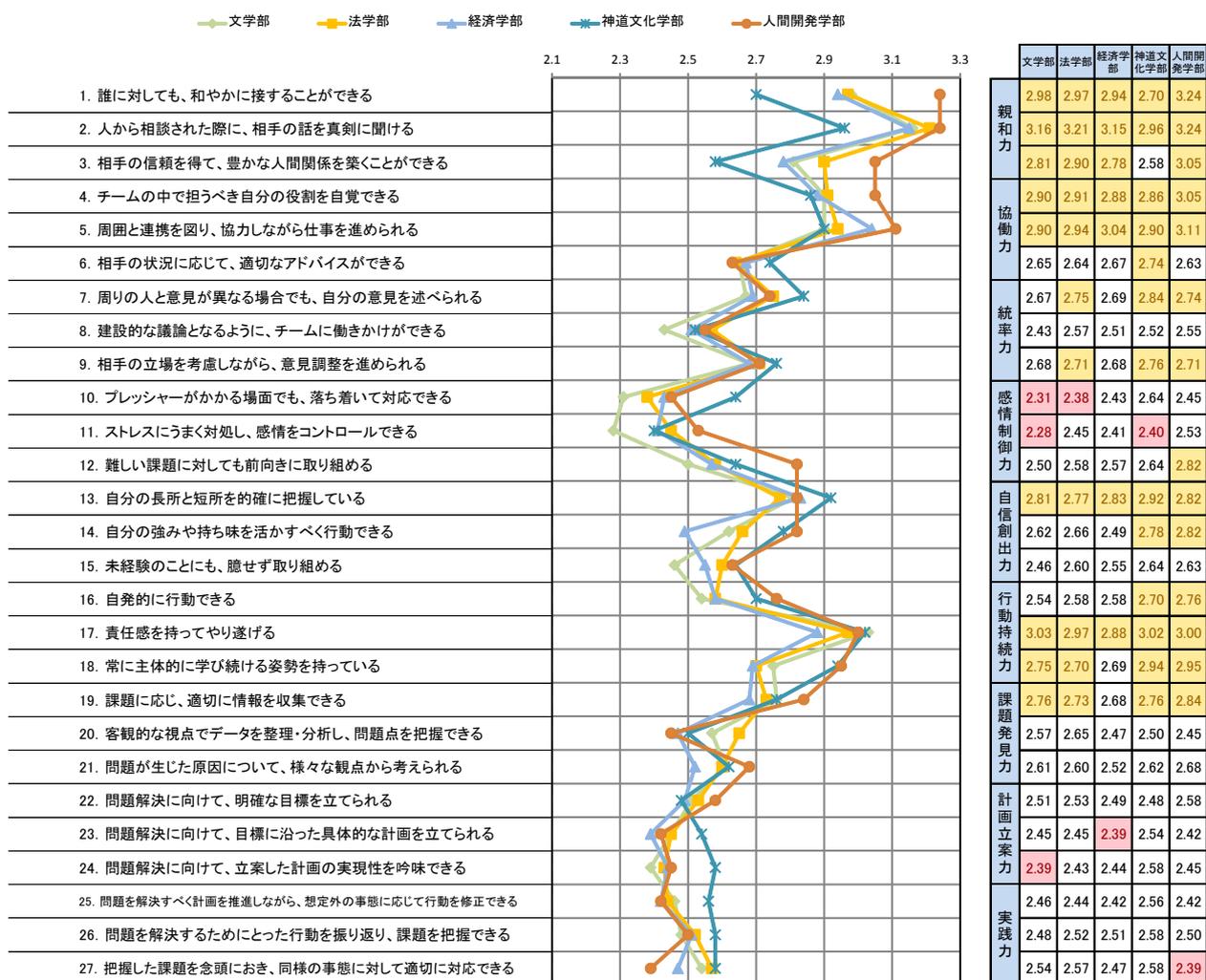
(注)2.4ポイント以下に赤、2.7ポイント以上に黄色で網掛けしている。

(4) 学部別コンピテンシー比較

コンピテンシーを学部別にみると、親和力、協働力、行動持続力の領域が学部共通して高い傾向がみられる。中でも親和力のうち「人から相談された際に、相手の話を真剣に聞ける」は、全学部で共通して高くなっている。

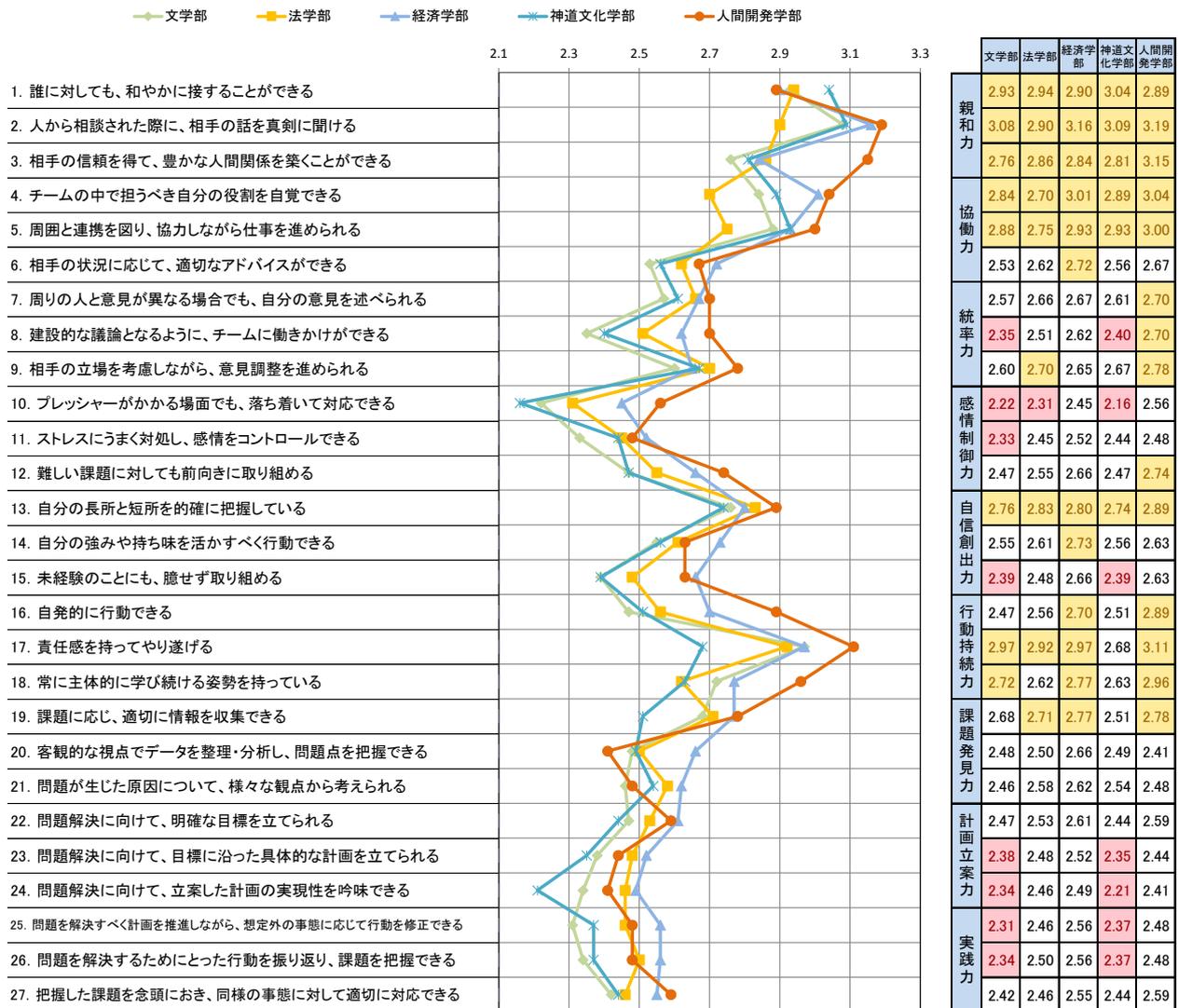
逆に評価が低い項目は、文学部と神道文化学部は「ストレスにうまく対処し、感情をコントロールできる」、法学部は「プレッシャーがかかる場面でも、落ち着いて対処できる」、経済学部は「問題解決に向けて、目標に沿った具体的な計画を立てられる」、人間開発学部は「把握した課題を念頭におき、同様の事態に対して適切に対応できる」が、それぞれ低くなっている。

図表 2-5 学部別コンピテンシー比較



(注)2.4ポイント以下に赤、2.7ポイント以上に黄色で網掛けしている。

[参考] 平成 28 年度 第 1 回卒業生調査



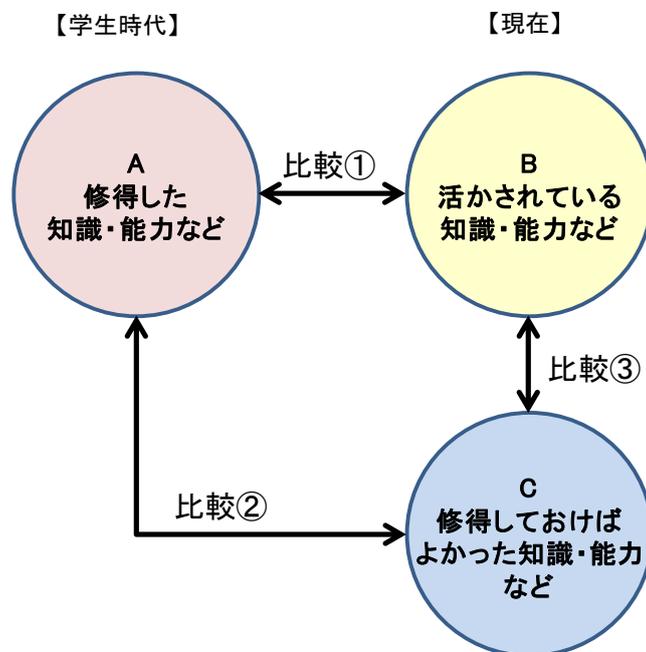
(注) 2.4ポイント以下に赤、2.7ポイント以上に黄色で網掛けしている。

2. 分析の構造と視点

リテラシー分析以降の項目においては、「A. 学生時代に修得した知識や能力など」、「B. 現在活かされている知識・能力など」、「C. 学生時代に修得しておけばよかった知識や能力など」の3つの設問について比較分析する。

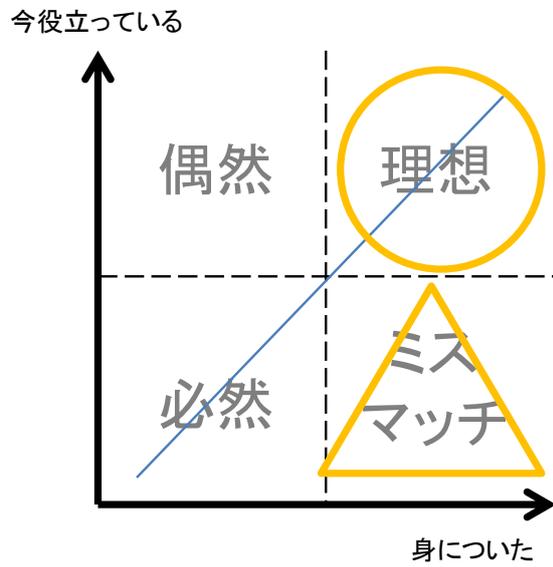
分析にあたっては相関関係に着目する。仮説としては、AB間（比較①）は正の相関関係、AC間（比較②）は負の相関関係、BC間（比較③）も負の相関関係が予想される。なお、次ページ以降の「3. リテラシー分析」と「4. コンピテンシー分析」については比較①②③、「5. 学修科目等」、「6. 学修の成果」については比較①②を行っている。

図表 2-6 分析の構造

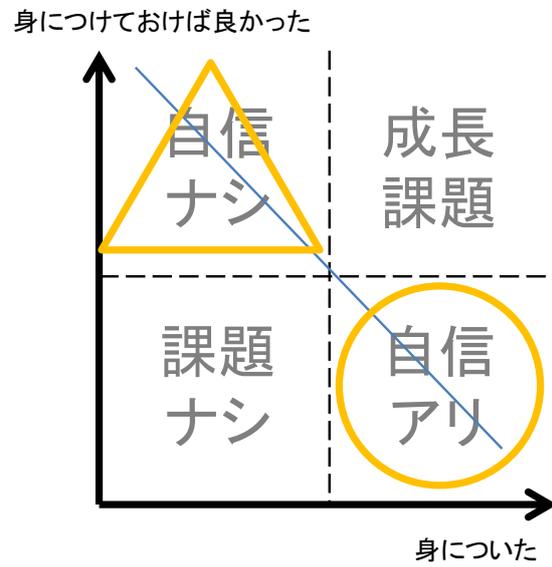


図表 2-7 分析の視点

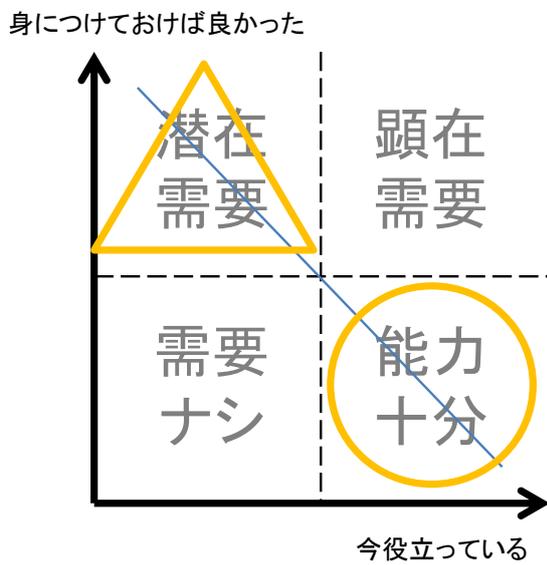
比較①の視点



比較②の視点



比較③の視点



Q. 学生時代に身についたことをお答えください。（それぞれ1つ選択）

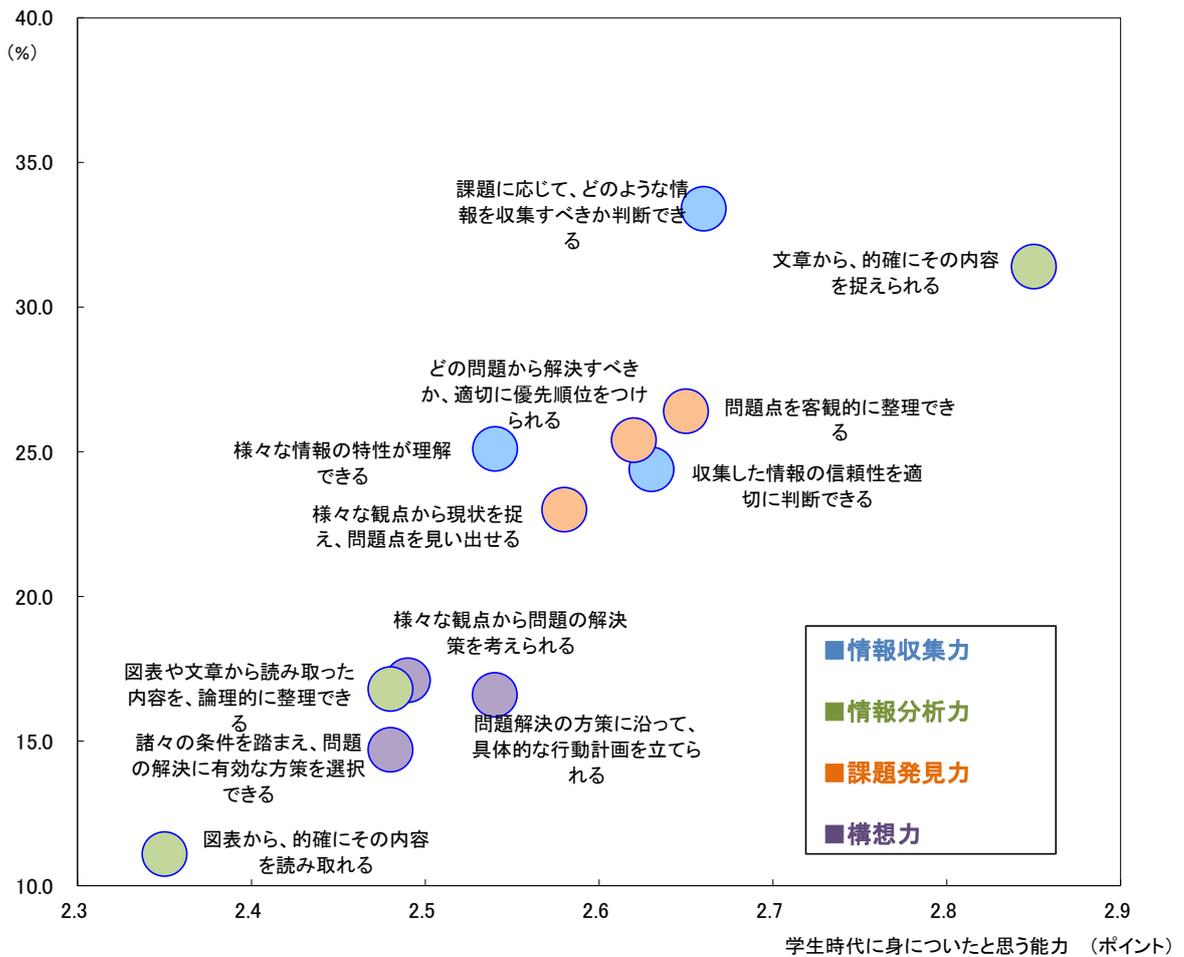
1. 大いに身についた 2. どちらかというと思身についた 3. どちらともいえない
 4. どちらかというと思身につかなかった 5. 身につかなかった

Q. 学生時代に修得したと思われる知識や能力のうち、現在に活かされているものをお答えください。（それぞれ1つ選択）

1. とてもよく活かされている 2. どちらかといえば活かされている
 3. どちらともいえない 4. どちらかといえば活かされていない
 5. 活かされていない

[参考] 平成 28 年度 第 1 回卒業生調査

今役立っているもの



(2) 学生時代に身についたと思う能力×身につけておけばよかったもの

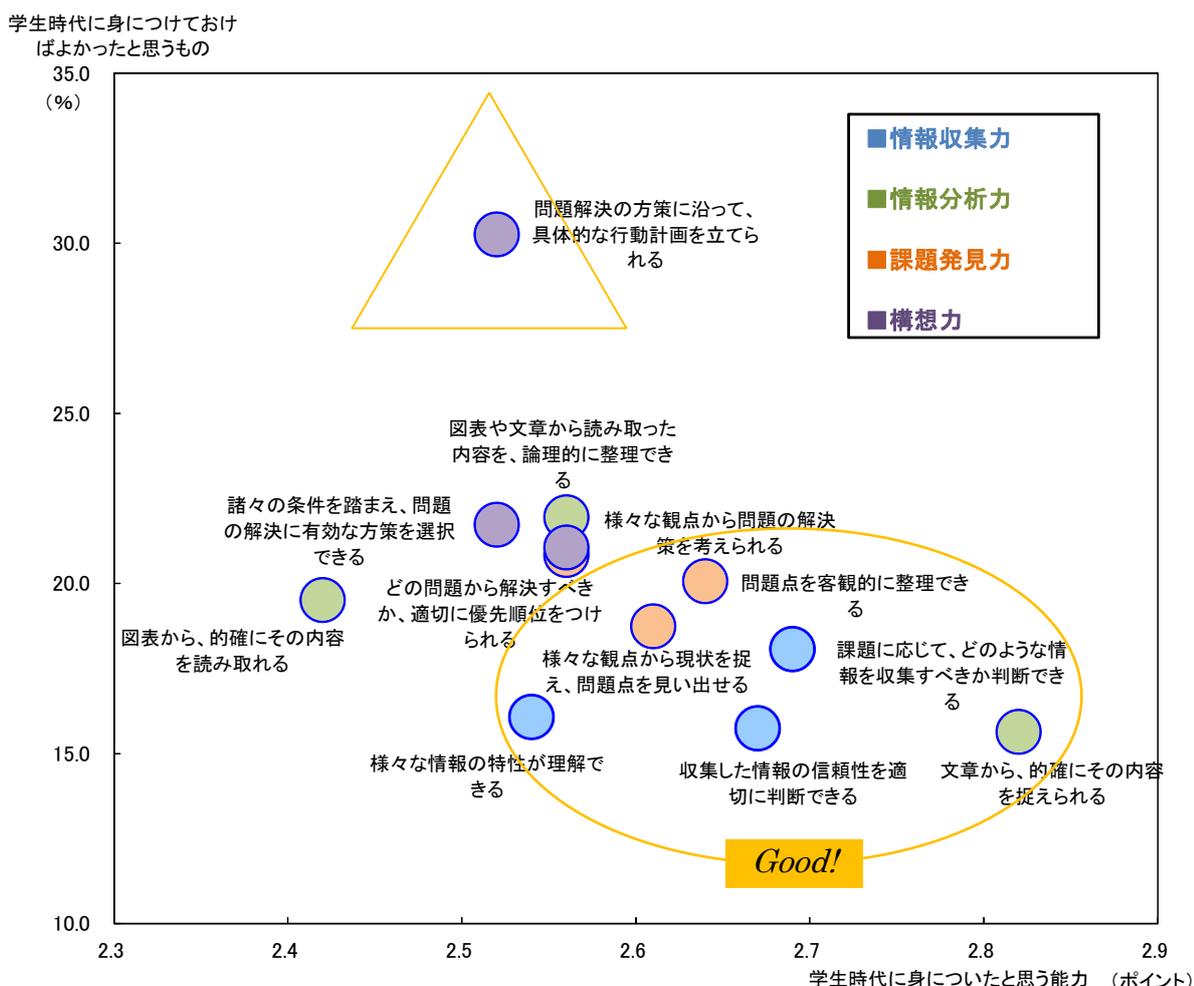
「学生時代に身についたと思う能力」は加重平均、「学生時代に身につけておけばよかったもの」は、複数回答の回答割合である。

「学生時代に身についたと思う能力」が高いと、「学生時代に身につけておけばよかったもの」の割合は低くなっているが、「学生時代に身についたと思う能力」が低いからといって、必ずしも「学生時代に身につけておけばよかった」とは考えていない傾向がみられる。

具体的には「図表から、的確にその内容を読み取れる」能力については、学生時代に身についたとする意見が最も低いものの、身につけておけばよかったという意見は2割に満たないことから、あまり必要性を感じていないと思われる。

これに対し、「問題解決の方策に沿って、具体的な行動計画を立てられる」は、身につけておけば良かったという意見が3割を超え、能力に自信がない項目と考えられる。

図表2-9 学生時代に身についたと思う能力×身につけておけばよかったもの



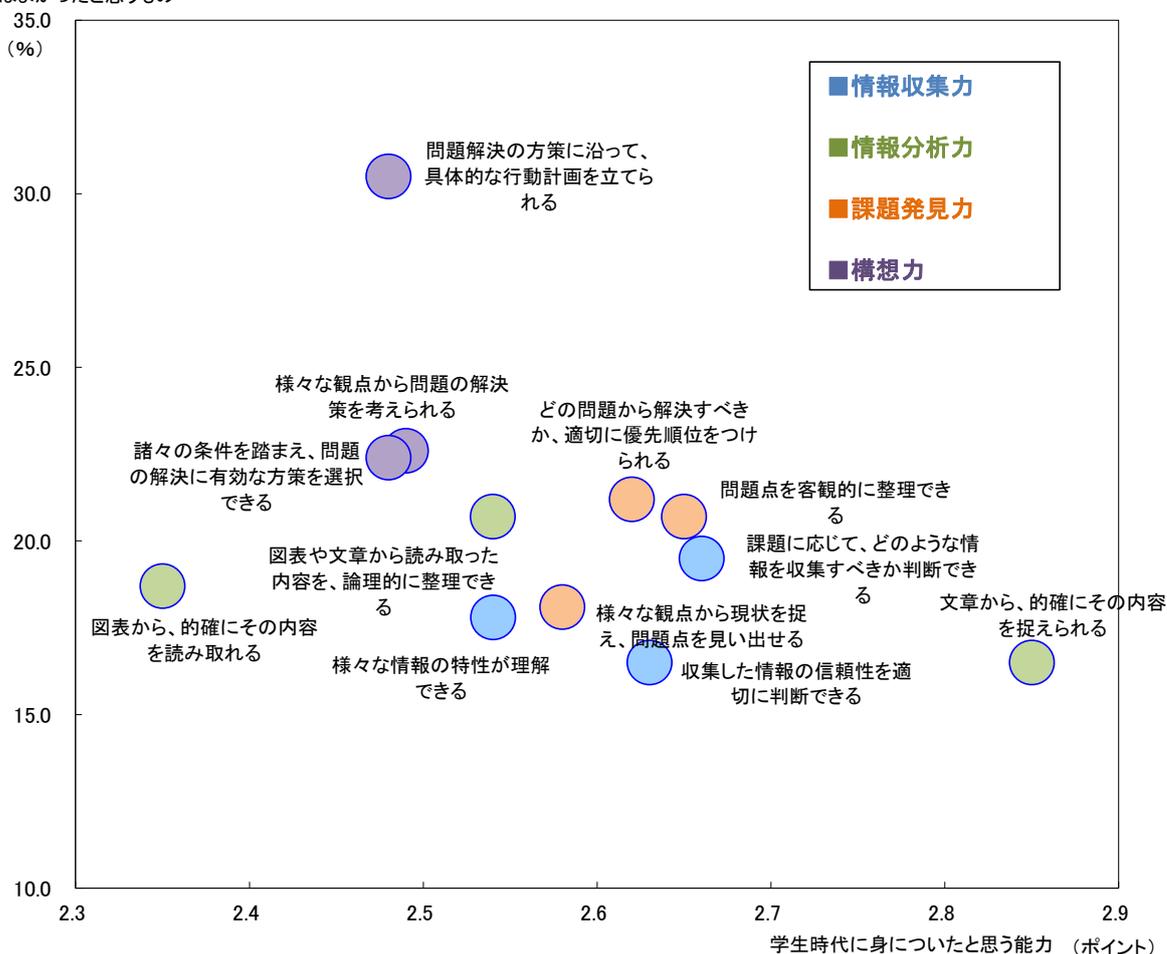
Q. 学生時代に身についたことをお答えください。（それぞれ1つ選択）

1. 大いに身についた 2. どちらかというと思身についた 3. どちらともいえない
 4. どちらかというと思身につかなかった 5. 身につかなかった

Q. 以下に掲げる力のうち、「学生時代に身につけておけばよかった」と思うものはありますか。
 （答えはいくつでも）

[参考] 平成 28 年度 第 1 回卒業生調査

学生時代に身につけておけばよかったと思うもの

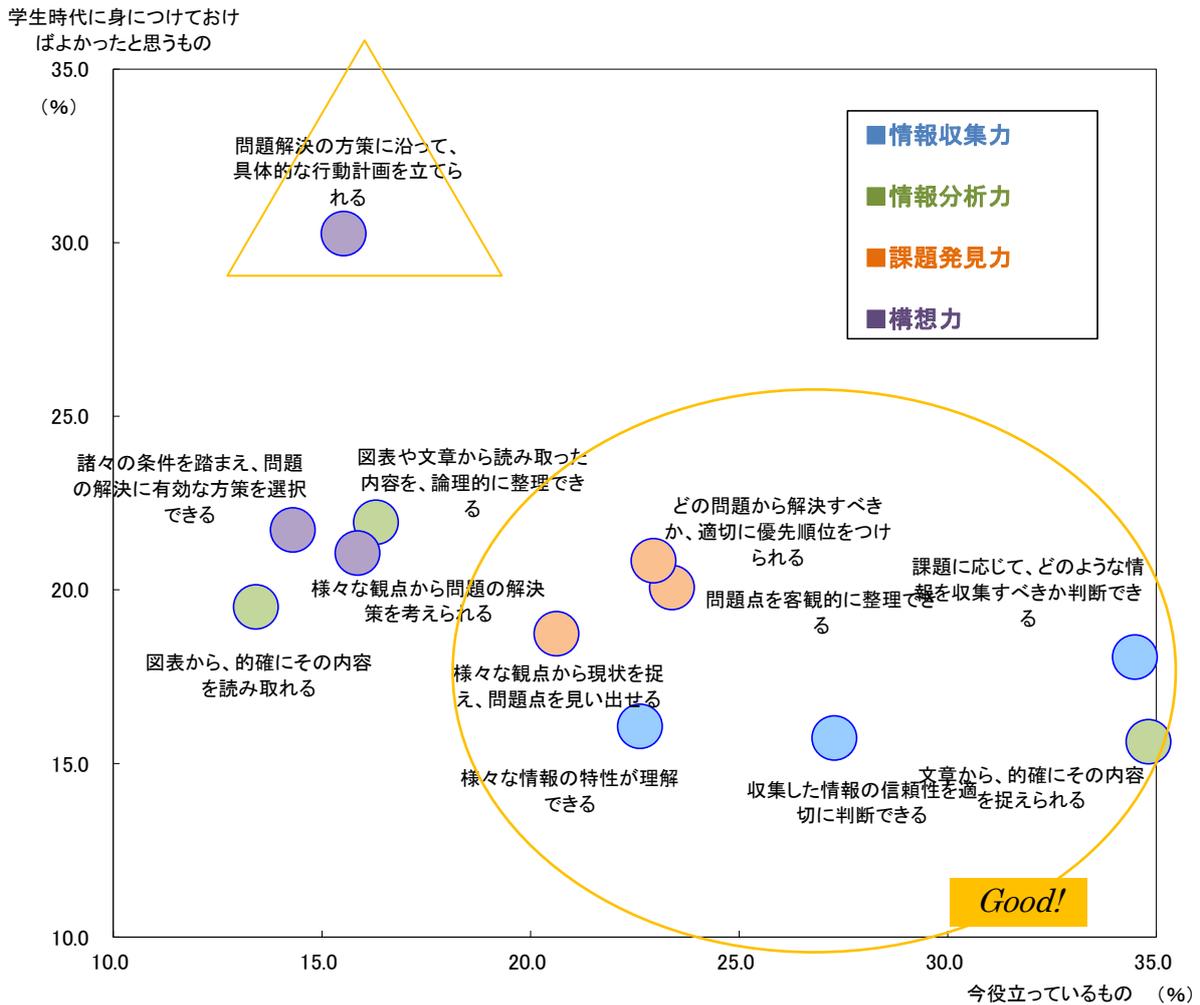


(3) 学生時代に身につけて今役立っている能力×身につけておけばよかったと思うもの

「学生時代に身につけて今役立っている能力」と「学生時代に身につけておけばよかったもの」は、ともに複数回答の回答割合である。

「問題解決の方策に沿って、具体的な行動計画を立てられる」は、学生時代に能力を獲得できていないので、当然ながら今能力を発揮もできていないが、必要性は感じている、という構造になっている。

図表 2-10 学生時代に身につけて今役だっている能力×身につけておけばよかったもの



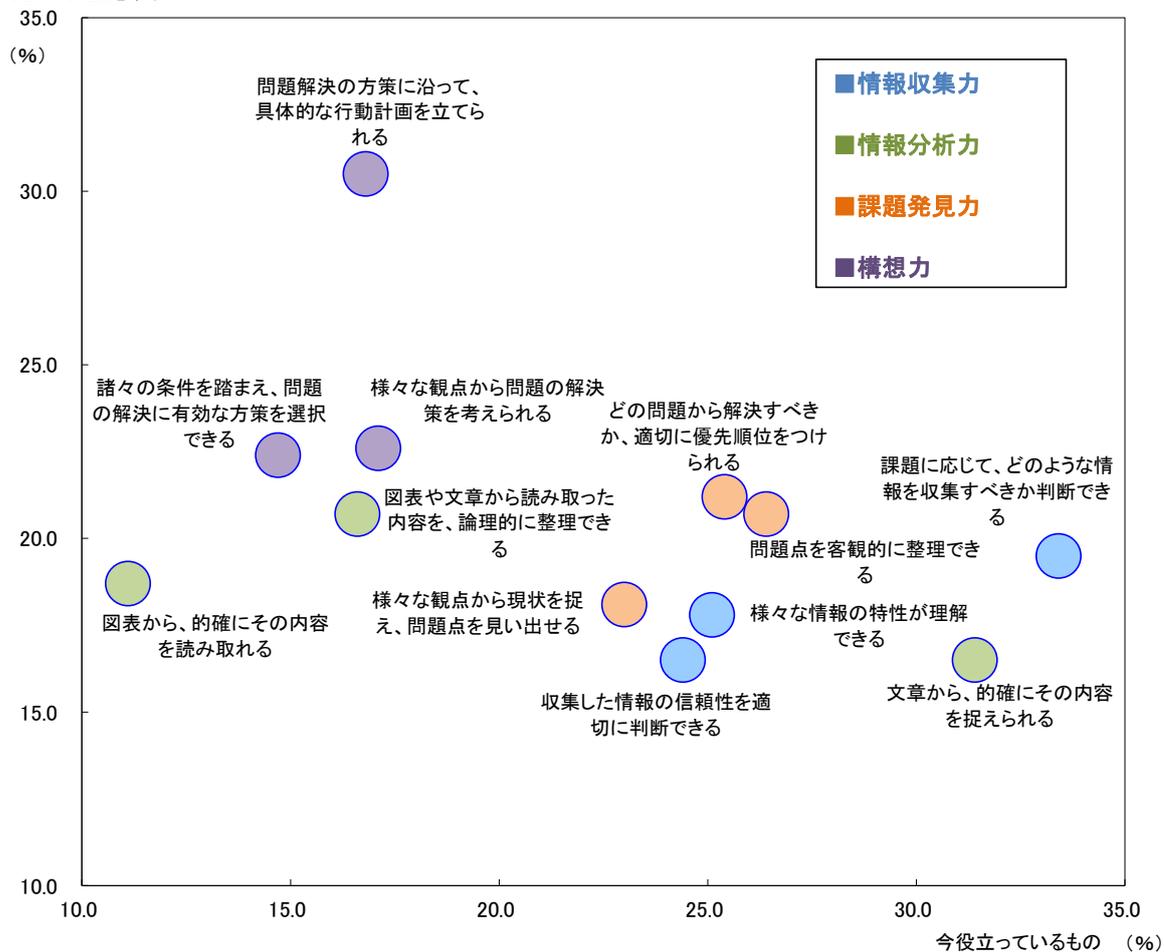
Q. 学生時代に修得したと思われる知識や能力のうち、現在に活かされているものをお答えください。（それぞれ1つ選択）

1. とてもよく活かされている
2. どちらかといえば活かされている
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば活かされていない
5. 活かされていない

Q. 以下に掲げる力のうち、「学生時代に身につけておけばよかった」と思うものはありますか。（答えはいくつでも）

[参考] 平成 28 年度 第 1 回卒業生調査

学生時代に身につけておけばよかったと思うもの



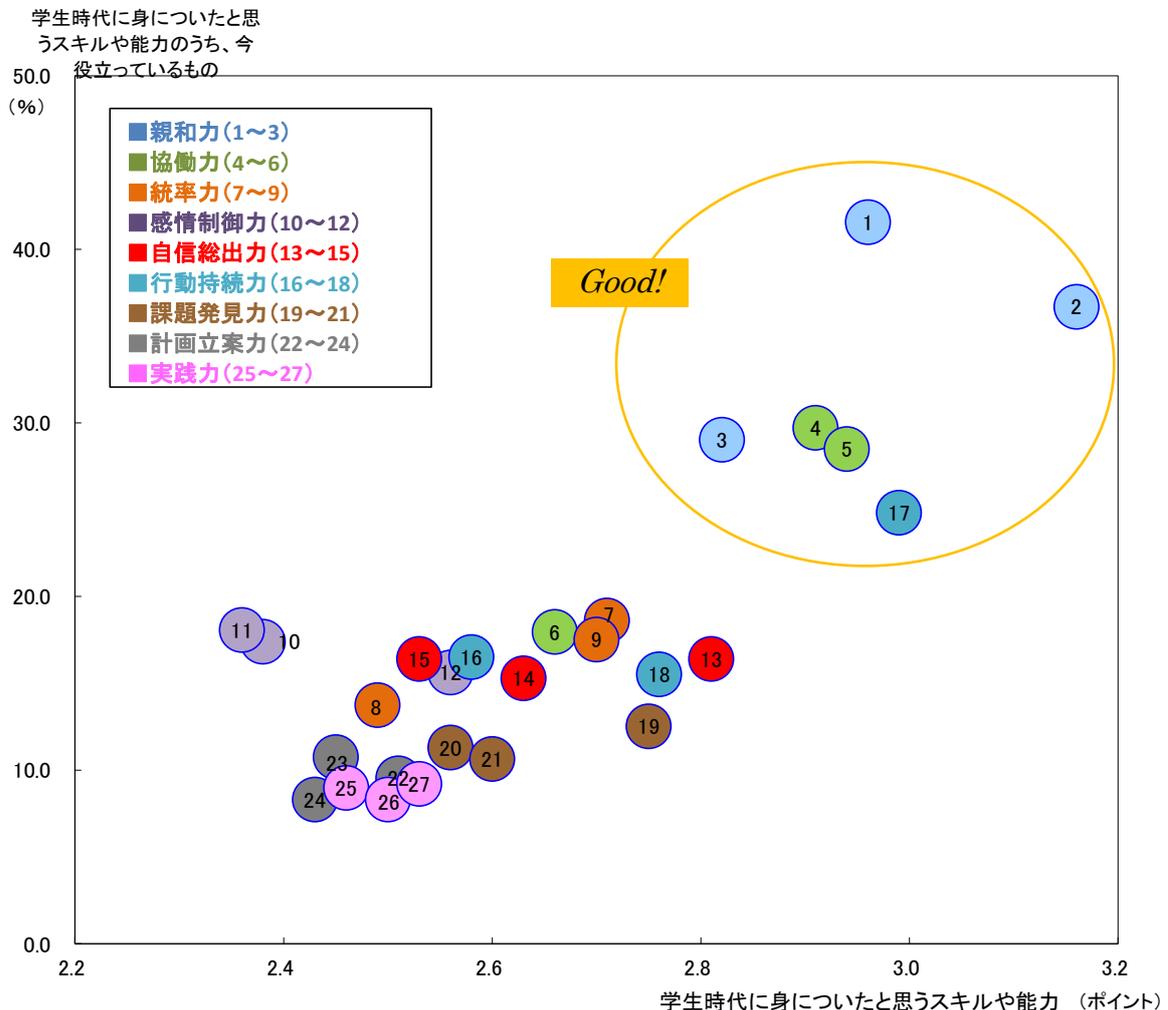
4. コンピテンシー分析

(1) 身についたと思うスキルや能力×今役立っているもの

「学生時代に身についたと思う能力」は加重平均、「今役立っているもの」は、複数回答の回答割合である。

「学生時代に身についたと思う能力」が高いほど、「今役立っている」という割合も高く、正の相関関係がみられる。なかでも 1～5 番および 17 番は、学生時代に身についたことが今役立っているもので、理想的である。

図表 2-11 身についたと思うスキルや能力×今役立っているもの



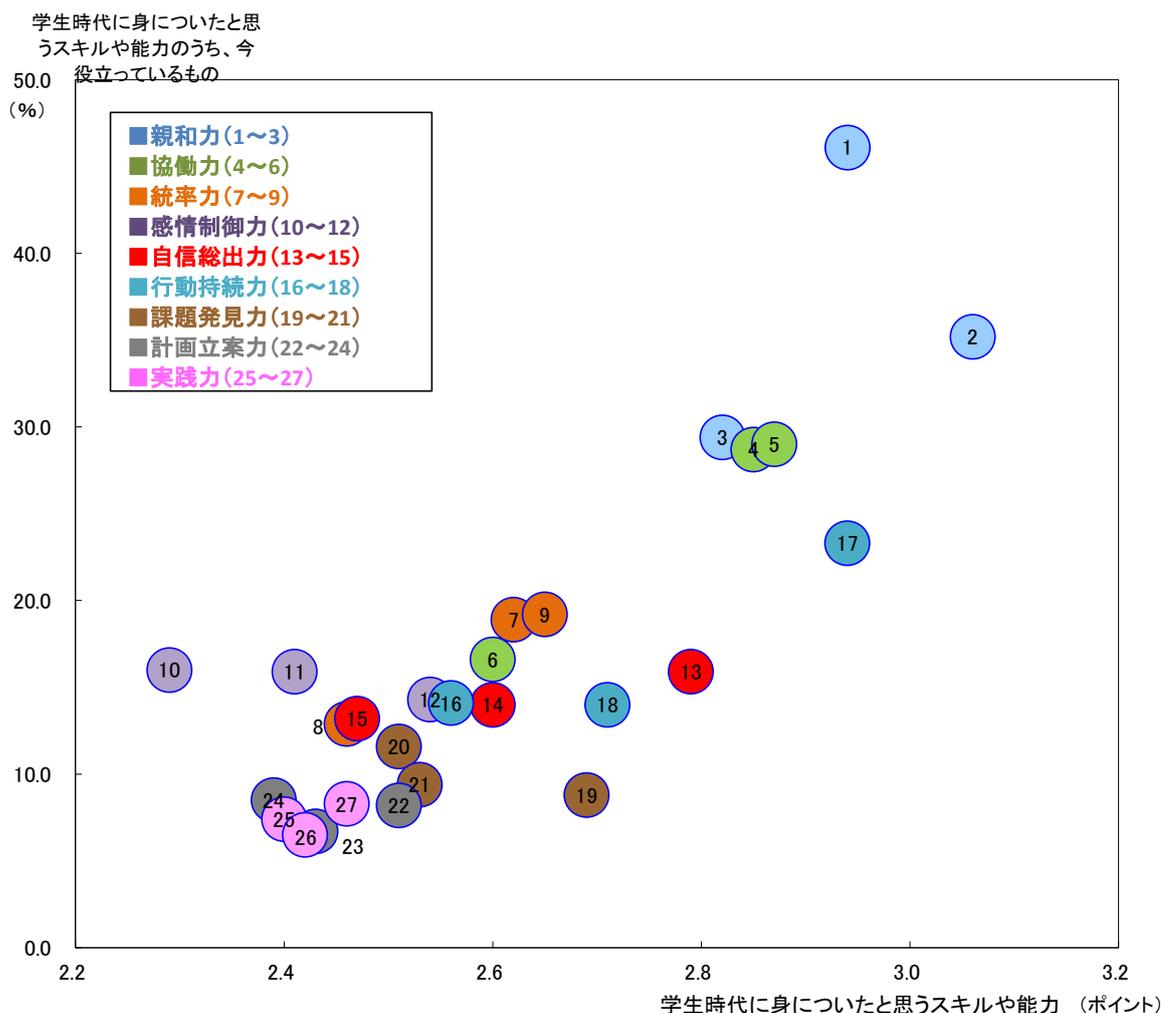
- | | |
|--------------------------------|--|
| 1. 誰に対しても和やかに接することができる | 15. 未経験のことにも、臆せず取り組める |
| 2. 人から相談された際に、相手の話を真剣に聞ける | 16. 自発的に行動できる |
| 3. 相手の信頼を得て、豊かな人間関係を築くことができる | 17. 責任感を持ってやり遂げる |
| 4. チームの中で担うべき自分の役割を自覚できる | 18. 常に主体的に学び続ける姿勢を持っている |
| 5. 周囲と連携を図り、協力しながら仕事を進められる | 19. 課題に応じ、適切に情報を収集できる |
| 6. 相手の状況に応じて、適切なアドバイスができる | 20. 客観的な視点でデータを整理・分析し、問題点を把握できる |
| 7. 周りの人と意見が異なる場合でも、自分の意見を述べられる | 21. 問題が生じた原因について、様々な観点から考えられる |
| 8. 建設的な議論となるように、チームに働きかけができる | 22. 問題解決に向けて、明確な目標を立てられる |
| 9. 相手の立場を考慮しながら、意見調整を進められる | 23. 問題解決に向けて、目標に沿った具体的な計画を立てられる |
| 10. プレッシャーがかかる場面でも落ち着いて対応できる | 24. 問題解決に向けて、立案した計画の実現性を吟味できる |
| 11. ストレスにうまく対処し、感情をコントロールできる | 25. 問題を解決すべく計画を推進しながら、想定外の事態に応じて行動を修正できる |
| 12. 難しい課題に対しても前向きに取り組める | 26. 問題を解決するためにとった行動を振り返り、課題を把握できる |
| 13. 自分の長所と短所を的確に把握している | 27. 把握した課題を念頭におき、同様の事態に対して適切に対応できる |
| 14. 自分の強みや持ち味を活かすべく行動できる | |

Q. 学生時代に、以下のような行動特性が身についたと思いますか。（それぞれ1つ選択）

1. よく当てはまる 2. 当てはまる 3. やや当てはまる 4. 全く当てはまらない

Q. 学生時代に身についたと思うスキルや能力のうち、今役立っているものはどれですか。（答えはいくつでも）

[参考] 平成28年度 第1回卒業生調査



- | | |
|--------------------------------|--|
| 1. 誰に対しても和やかに接することができる | 15. 未経験のことにも、臆せず取り組める |
| 2. 人から相談された際に、相手の話を真剣に聞ける | 16. 自発的に行動できる |
| 3. 相手の信頼を得て、豊かな人間関係を築くことができる | 17. 責任感を持ってやり遂げる |
| 4. チームの中で担うべき自分の役割を自覚できる | 18. 常に主体的に学び続ける姿勢を持っている |
| 5. 周囲と連携を図り、協力しながら仕事を進められる | 19. 課題に応じ、適切に情報を収集できる |
| 6. 相手の状況に応じて、適切なアドバイスができる | 20. 客観的な視点でデータを整理・分析し、問題点を把握できる |
| 7. 周りの人と意見が異なる場合でも、自分の意見を述べられる | 21. 問題が生じた原因について、様々な観点から考えられる |
| 8. 建設的な議論となるように、チームに働きかけができる | 22. 問題解決に向けて、明確な目標を立てられる |
| 9. 相手の立場を考慮しながら、意見調整を進められる | 23. 問題解決に向けて、目標に沿った具体的な計画を立てられる |
| 10. プレッシャーがかかる場面でも落ち着いて対応できる | 24. 問題解決に向けて、立案した計画の実現性を吟味できる |
| 11. ストレスにうまく対処し、感情をコントロールできる | 25. 問題を解決すべく計画を推進しながら、想定外の事態に応じて行動を修正できる |
| 12. 難しい課題に対しても前向きに取り組める | 26. 問題を解決するためにとった行動を振り返り、課題を把握できる |
| 13. 自分の長所と短所を的確に把握している | 27. 把握した課題を念頭におき、同様の事態に対して適切に対応できる |
| 14. 自分の強みや持ち味を活かすべく行動できる | |

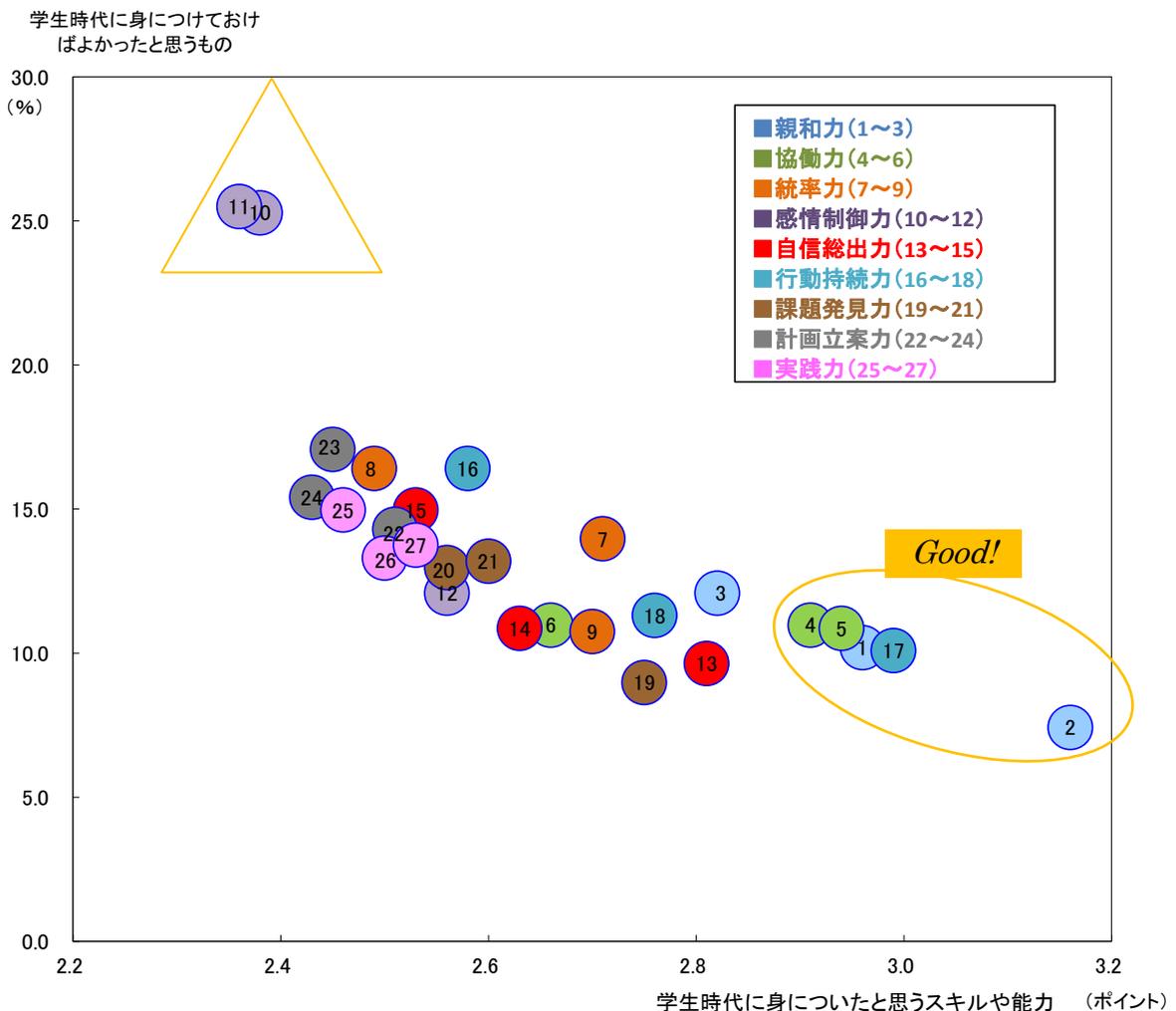
(2) 身についたスキルや能力×学生時代に身につけておけばよかったと思うもの

「学生時代に身についたと思うスキルや能力」は加重平均、「学生時代に身につけておけばよかったと思うもの」は、複数回答の回答割合である。

「学生時代に身についたと思うスキルや能力」が低いと、「学生時代に身につけておけばよかったと思うもの」の割合は高く、負の相関関係がみられる。

中でも1～2番、4～5番、17番は、多くの卒業生にとって特に自信がもてる能力として定着しているといえる。一方、10番「プレッシャーがかかる場面でも落ちついて対応できる」や11番「ストレスにうまく対処し、感情をコントロールできる」は、今必要性を強く認識しているものの、学生時代には能力を十分獲得できないまま社会人になっているため、自身の努力で能力を身につけざるを得ない状況になっている。

図表2-12 学生時代に身についたスキルや能力×身につけておけばよかったもの



- | | |
|--------------------------------|--|
| 1. 誰に対しても和やかに接することができる | 10. 木陰映のことにも、臆せず取り組める |
| 2. 人から相談された際に、相手の話を真剣に聞ける | 11. 自発的に行動できる |
| 3. 相手の信頼を得て、豊かな人間関係を築くことができる | 12. 責任感を持ってやり遂げる |
| 4. チームの中で担うべき自分の役割を自覚できる | 13. 常に主体的に学び続ける姿勢を持っている |
| 5. 周囲と連携を図り、協力しながら仕事を進められる | 14. 課題に応じ、適切に情報を収集できる |
| 6. 相手の状況に応じて、適切なアドバイスができる | 15. 問題が生じた原因について、様々な観点から考えられる |
| 7. 周りの人と意見が異なる場合でも、自分の意見を述べられる | 16. 問題解決に向けて、明確な目標を立てられる |
| 8. 建設的な議論となるように、チームに働きかけができる | 17. 問題解決に向けて、目標に沿った具体的な計画を立てられる |
| 9. 相手の立場を考慮しながら、意見調整を進められる | 18. 問題解決に向けて、立案した計画の実現性を吟味できる |
| 10. プレッシャーがかかる場面でも落ち着いて対応できる | 19. 問題を解決すべく計画を推進しながら、想定外の事態に応じて行動を修正できる |
| 11. ストレスにうまく対処し、感情をコントロールできる | 20. 問題を解決するためにとった行動を振り返り、課題を把握できる |
| 12. 難しい課題に対しても前向きに取り組める | 21. 把握した課題を念頭におき、同様の事態に対して適切に対応できる |
| 13. 自分の長所と短所を的確に把握している | |
| 14. 自分の強みや持ち味を活かすべく行動できる | |

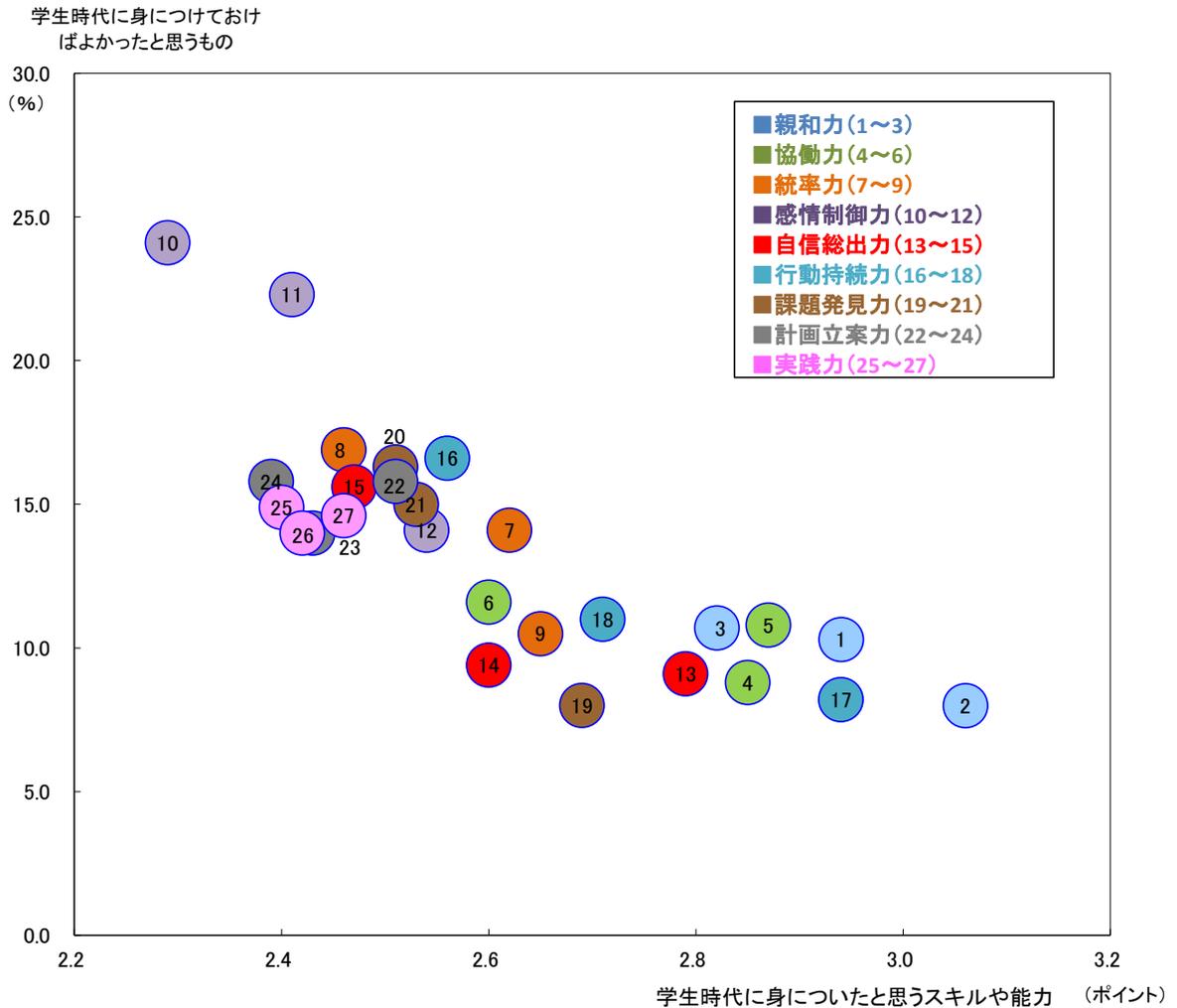
Q. 学生時代に、以下のような行動特性が身についたと思いますか。（それぞれ1つ選択）

1. よく当てはまる 2. 当てはまる 3. やや当てはまる 4. 全く当てはまらない

Q. 以下に掲げる力のうち、「学生時代に身につけておけばよかった」と思うものはありますか。

(答えはいくつでも)

[参考] 平成 28 年度 第 1 回卒業生調査



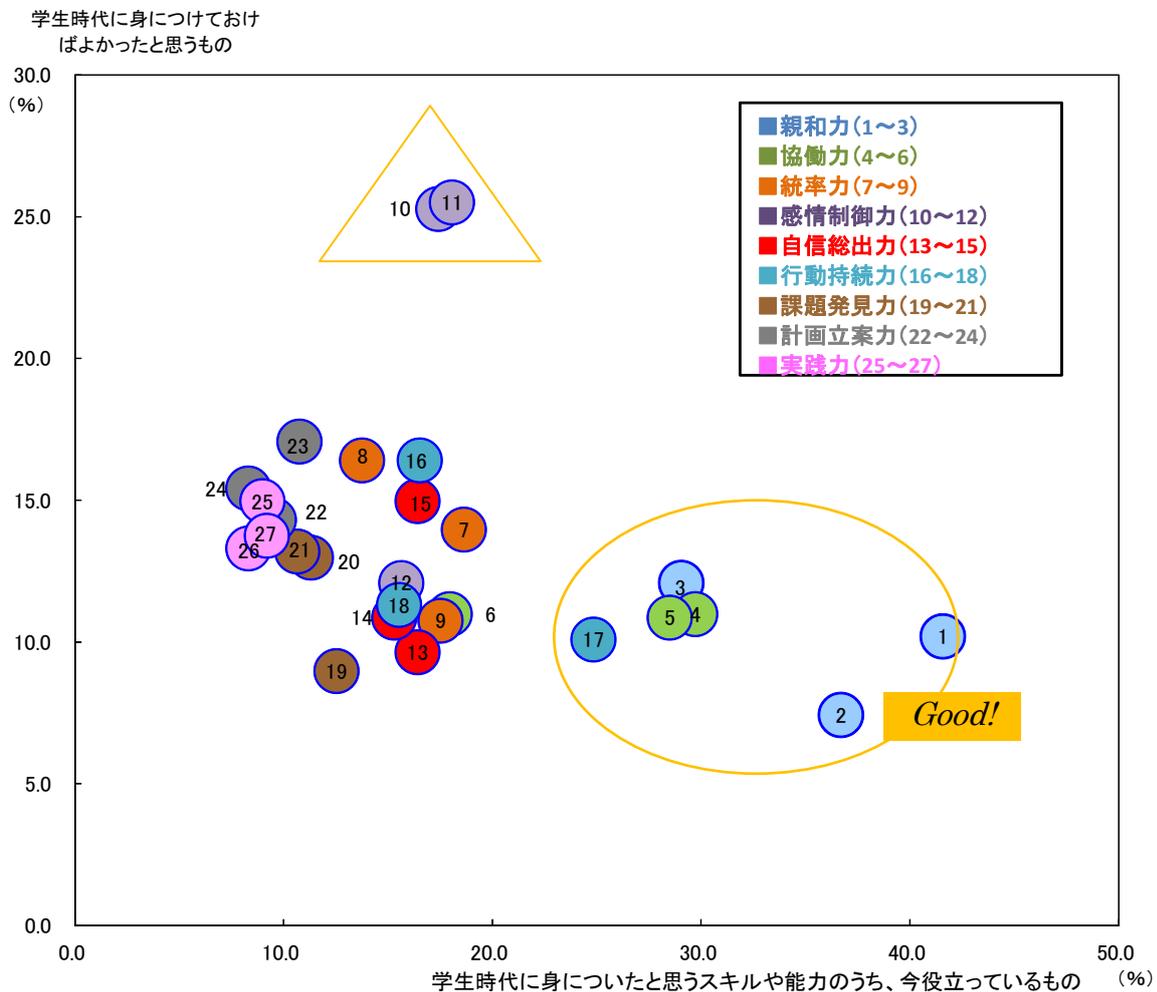
- | | |
|--------------------------------|--|
| 1. 誰に対しても和やかに接することができる | 15. 未経験のことにも、臆せず取り組める |
| 2. 人から相談された際に、相手の話を真剣に聞ける | 16. 自発的に行動できる |
| 3. 相手の信頼を得て、豊かな人間関係を築くことができる | 17. 責任感を持ってやり遂げる |
| 4. チームの中で担うべき自分の役割を自覚できる | 18. 常に主体的に学び続ける姿勢を持っている |
| 5. 周囲と連携を図り、協力しながら仕事を進められる | 19. 課題に応じ、適切に情報を収集できる |
| 6. 相手の状況に応じて、適切なアドバイスができる | 20. 客観的な視点でデータを整理・分析し、問題点を把握できる |
| 7. 周りの人と意見が異なる場合でも、自分の意見を述べられる | 21. 問題が生じた原因について、様々な観点から考えられる |
| 8. 建設的な議論となるように、チームに働きかけができる | 22. 問題解決に向けて、明確な目標を立てられる |
| 9. 相手の立場を考慮しながら、意見調整を進められる | 23. 問題解決に向けて、目標に沿った具体的な計画を立てられる |
| 10. プレッシャーがかかる場面でも落ち着いて対応できる | 24. 問題解決に向けて、立案した計画の実現性を吟味できる |
| 11. ストレスにうまく対処し、感情をコントロールできる | 25. 問題を解決すべく計画を推進しながら、想定外の事態に応じて行動を修正できる |
| 12. 難しい課題に対しても前向きに取り組める | 26. 問題を解決するためにとった行動を振り返り、課題を把握できる |
| 13. 自分の長所と短所を的確に把握している | 27. 把握した課題を念頭におき、同様の事態に対して適切に対応できる |
| 14. 自分の強みや持ち味を活かすべく行動できる | |

(3) 役立っているスキルや能力×学生時代に身につけておけばよかったと思うもの

「今役立っているスキルや能力」と「学生時代に身につけておけばよかったもの」は、どちらも複数回答の回答割合である。

ここでも1～5番および17番は「今役立って」おり、かつ「学生時代に身につけておけばよかった」とは思っていないので、能力は社会人生活を送るうえで十分な水準にあると考えられている。一方、10番「プレッシャーがかかる場面でも落ちついて対応できる」や11番「ストレスにうまく対処し、感情をコントロールできる」は、今役立っていないものの、修得ニーズが高い。言い換えれば、これらの能力を身につけることができなかつた故に、今発揮できずにいるが、修得できていれば有益であるという潜在的なニーズをあらわしている。

図表2-13 今役立っているスキルや能力×学生時代に身につけておけばよかったもの

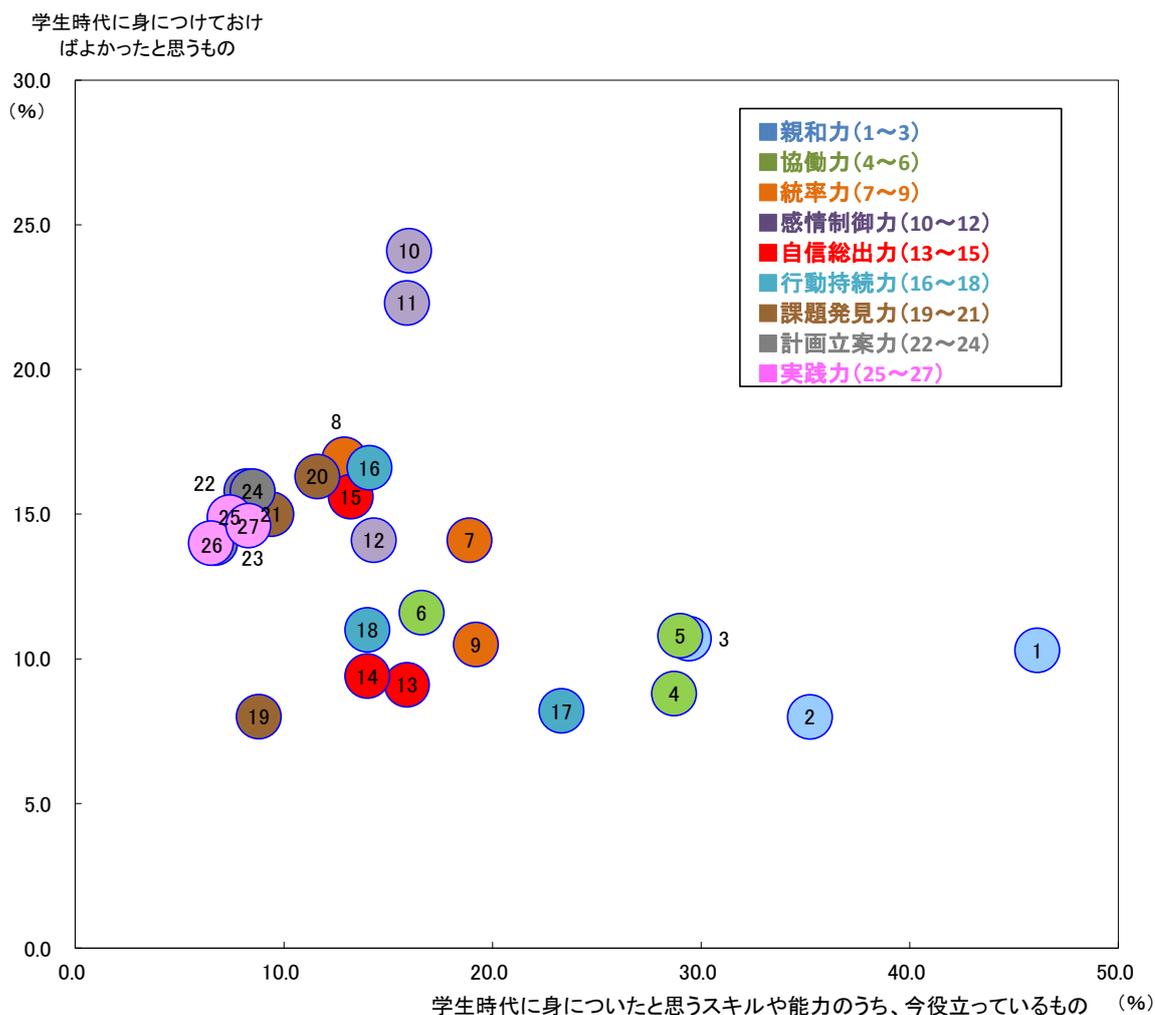


- | | |
|--------------------------------|--|
| 1. 誰に対しても和やかに接することができる | 15. 未経験のことにも、臆せず取り組める |
| 2. 人から相談された際に、相手の話を真剣に聞ける | 16. 自発的に行動できる |
| 3. 相手の信頼を得て、豊かな人間関係を築くことができる | 17. 責任感を持ってやり遂げる |
| 4. チームの中で担うべき自分の役割を自覚できる | 18. 常に主体的に学び続ける姿勢を持っている |
| 5. 周囲と連携を図り、協力しながら仕事を進められる | 19. 課題に応じ、適切に情報を収集できる |
| 6. 相手の状況に応じて、適切なアドバイスができる | 20. 客観的な視点でデータを整理・分析し、問題点を把握できる |
| 7. 周りの人と意見が異なる場合でも、自分の意見を述べられる | 21. 問題が生じた原因について、様々な観点から考えられる |
| 8. 建設的な議論となるように、チームに働きかけができる | 22. 問題解決に向けて、明確な目標を立てられる |
| 9. 相手の立場を考慮しながら、意見調整を進められる | 23. 問題解決に向けて、目標に沿った具体的な計画を立てられる |
| 10. プレッシャーがかかる場面でも落ち着いて対応できる | 24. 問題解決に向けて、立案した計画の実現性を吟味できる |
| 11. ストレスにうまく対処し、感情をコントロールできる | 25. 問題を解決すべく計画を推進しながら、想定外の事態に応じて行動を修正できる |
| 12. 難しい課題に対しても前向きに取り組める | 26. 問題を解決するためにとった行動を振り返り、課題を把握できる |
| 13. 自分の長所と短所を的確に把握している | 27. 把握した課題を念頭におき、同様の事態に対して適切に対応できる |
| 14. 自分の強みや持ち味を活かすべく行動できる | |

Q. 学生時代に身についたと思うスキルや能力のうち、今役立っているものはどれですか。（答えはいくつでも）

Q. 以下に掲げる力のうち、「学生時代に身につけておけばよかった」と思うものはありますか。（答えはいくつでも）

[参考] 平成 28 年度 第 1 回卒業生調査



- | | |
|--------------------------------|--|
| 1. 誰に対しても和やかに接することができる | 15. 未経験のことにも、臆せず取り組める |
| 2. 人から相談された際に、相手の話を真剣に聞ける | 16. 自発的に行動できる |
| 3. 相手の信頼を得て、豊かな人間関係を築くことができる | 17. 責任感を持ってやり遂げる |
| 4. チームの中で担うべき自分の役割を自覚できる | 18. 常に主体的に学び続ける姿勢を持っている |
| 5. 周囲と連携を図り、協力しながら仕事を進められる | 19. 課題に応じ、適切に情報を収集できる |
| 6. 相手の状況に応じて、適切なアドバイスができる | 20. 客観的な視点でデータを整理・分析し、問題点を把握できる |
| 7. 周りの人と意見が異なる場合でも、自分の意見を述べられる | 21. 問題が生じた原因について、様々な観点から考えられる |
| 8. 建設的な議論となるように、チームに働きかけができる | 22. 問題解決に向けて、明確な目標を立てられる |
| 9. 相手の立場を考慮しながら、意見調整を進められる | 23. 問題解決に向けて、目標に沿った具体的な計画を立てられる |
| 10. プレッシャーがかかる場面でも落ち着いて対応できる | 24. 問題解決に向けて、立案した計画の実現性を吟味できる |
| 11. ストレスにうまく対処し、感情をコントロールできる | 25. 問題を解決すべく計画を推進しながら、想定外の事態に応じて行動を修正できる |
| 12. 難しい課題に対しても前向きに取り組める | 26. 問題を解決するためにとった行動を振り返り、課題を把握できる |
| 13. 自分の長所と短所を的確に把握している | 27. 把握した課題を念頭におき、同様の事態に対して適切に対応できる |
| 14. 自分の強みや持ち味を活かすべく行動できる | |

5. 学修科目等

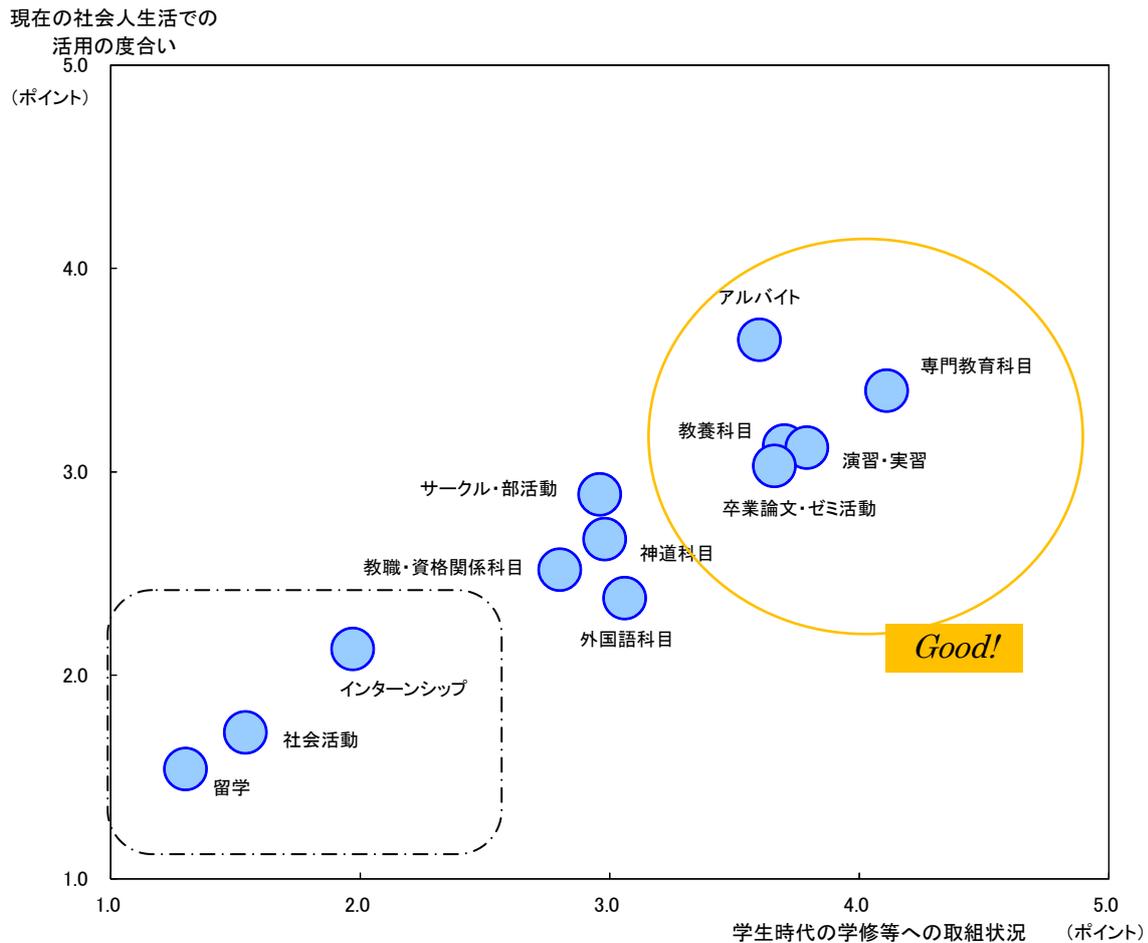
(1) 学生時代の学修等への取組状況×現在の社会人生活での活用の度合い

「学生時代取り組んだ学修等への取組状況」と「現在の社会人生活での活用の度合い」を、それぞれ加重平均で点数化した。

グラフは正の相関関係がみられ、概ね熱心に取り組んだものほど、その後活用される度合いも高くなっている。なかでも「専門教育科目」、「アルバイト」、「演習・実習」、「教養科目」、「卒業論文・ゼミ活動」は熱心に取り組み、社会人生活においても活用していると回答しており、理想的といえる。

また、「留学」や「社会活動」などは、選択しているのが一部の学生であるため、全体に占める活動度合いは高くないが、選択した当事者における役立ち度という点では、異なる結果となると思われる。

図表 2-14 学修等への取組状況×活用の度合い



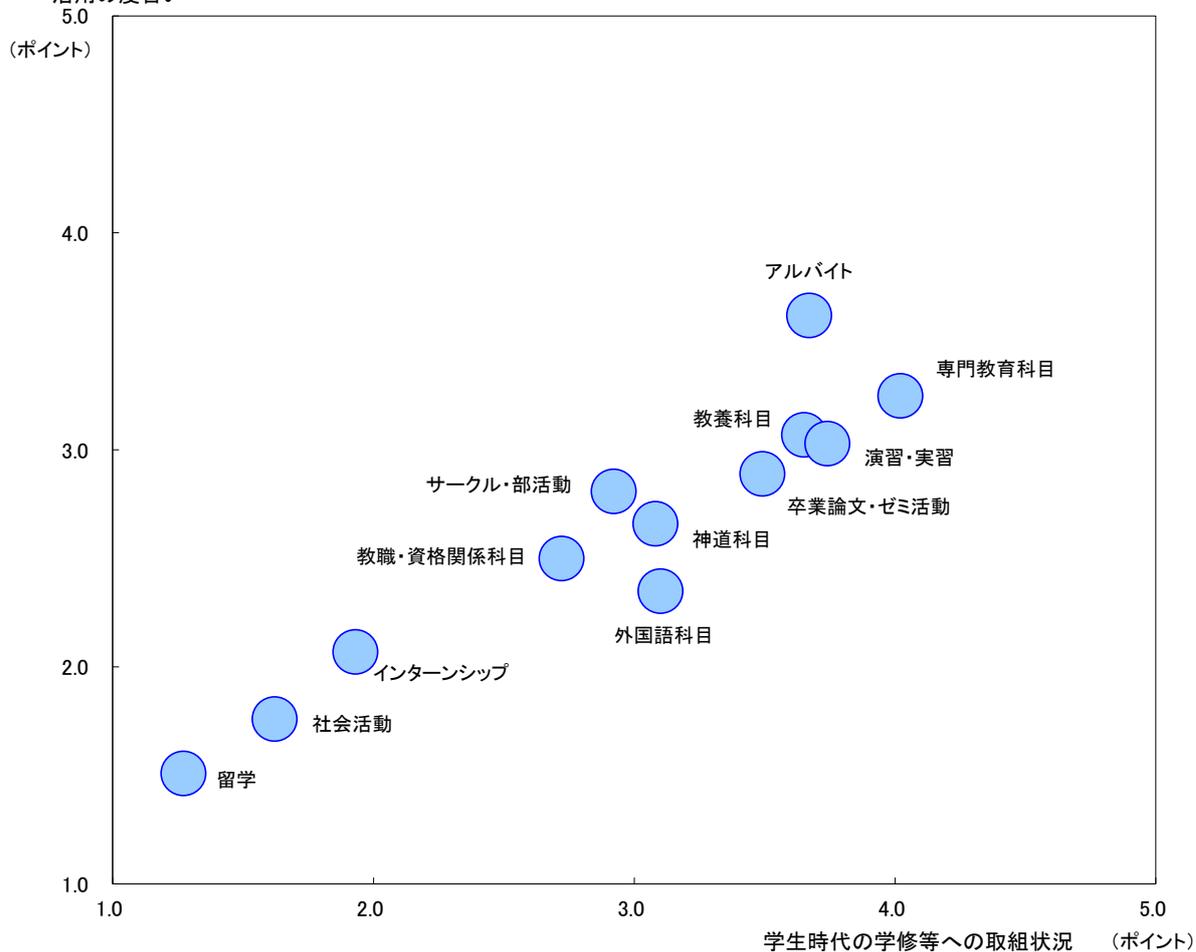
Q. 学生時代の学修等への取組状況をお答えください。（それぞれ1つ選択）

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 熱心に取り組んだ | 2. どちらかといえば熱心に取り組んだ |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえば熱心に取り組まなかった |
| 5. 熱心に取り組まなかった・行っていない | |

Q. 学生時代に学修したことや取り組んだことは、現在の社会人生活でどの程度活かされていますか。（それぞれ1つ選択）

[参考] 平成 28 年度 第 1 回卒業生調査

現在の社会人生活での
活用の度合い

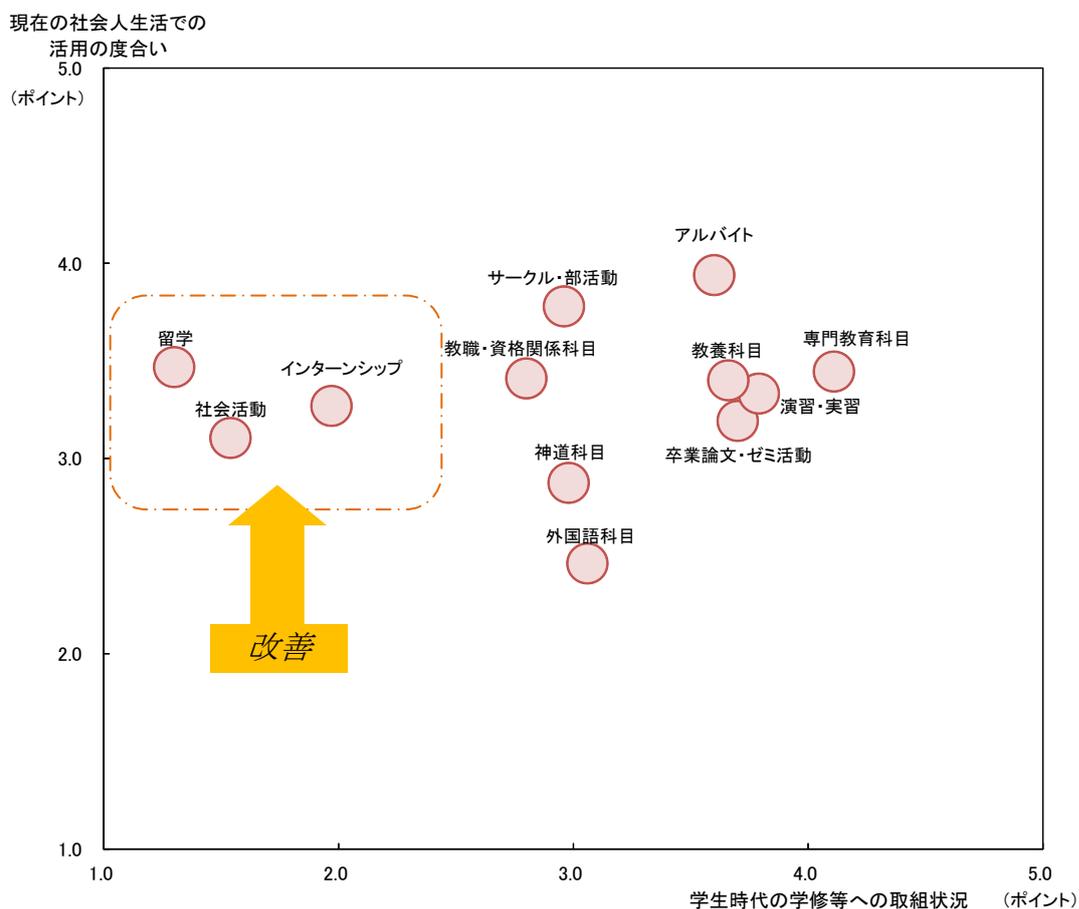


(2) 学生時代の学修等への取組状況×現在の社会人生活での活用の度合い（「取り組んでいない」を除く）

学修科目等によっては、選択科目のように全学生が対象ではないものも含まれる。そこで、現在の社会人生活での活用の度合いについては、「熱心に取り組まなかった・行っていない」と回答した学生を除いて再集計を試みた。

前ページのグラフと比較すると、「留学」、「社会活動」、「インターンシップ」について活用の度合いが大きく改善していることが読み取れる。これらの学修科目等に取り組む学生は限られるが、参加した者は、その後の社会人生活に寄与していることがわかる。

図表 2-15 学修等への取組状況×活用の度合い（「取り組んでいない」を除く）



6. 学修の成果

(1) 修得した知識や能力×活用の度合い

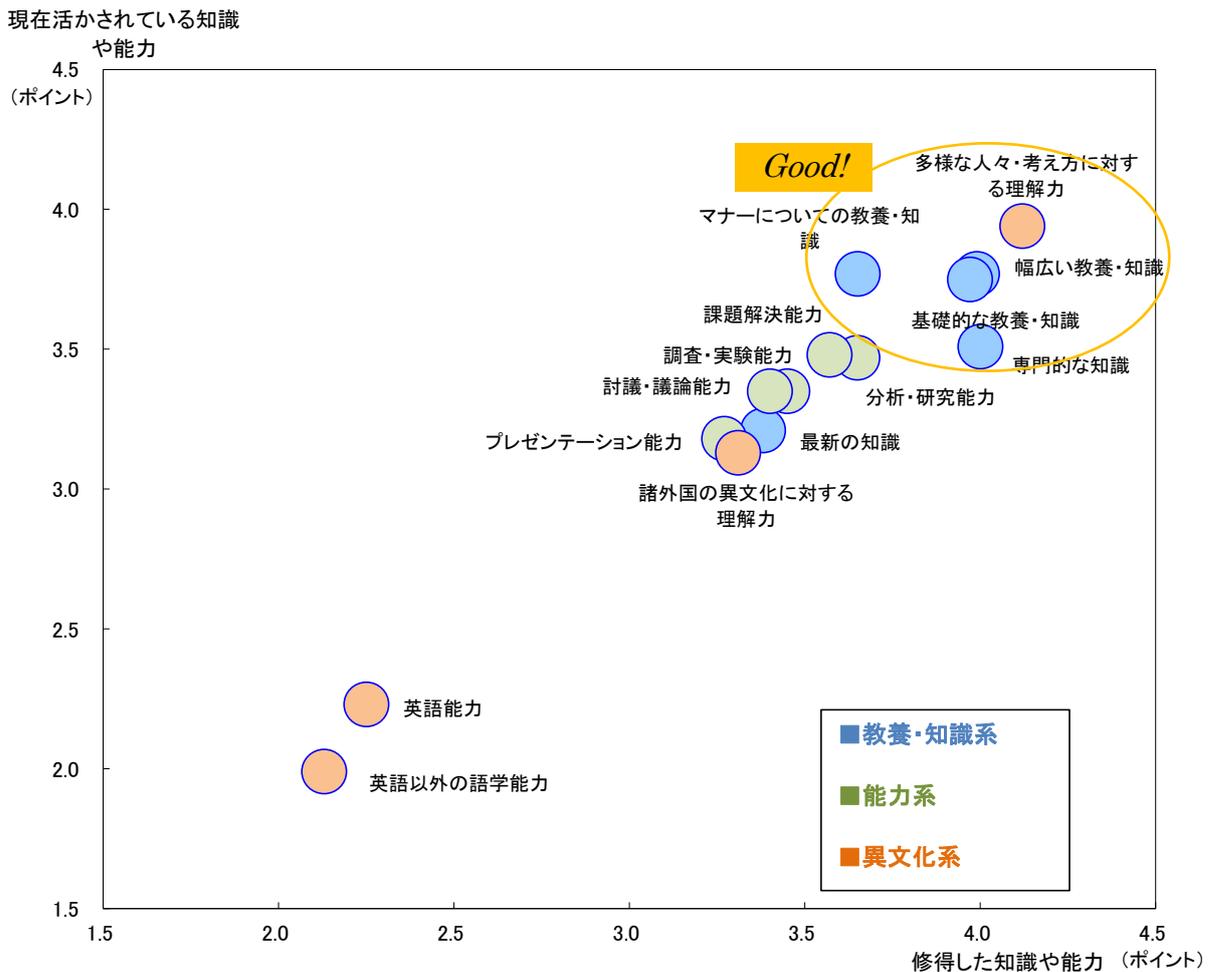
「学生時代に修得した知識や能力」と「現在活かされている知識や能力」を、それぞれ加重平均で点数化した。

グラフは正の相関関係がみられ、概ね熱心に取り組んだものほど、その後活用される度合いも高くなっている。

大きな分野で見ると、教養・知識系は「学生時代に身についた」という割合も高く、かつ「現在も活かされている」という割合も高いことから、理想的な修得といえる。修得したが、活かされていないというミスマッチはみられない。

また、異文化系のうち、「英語能力」と「英語以外の語学能力」については、修得・活用ともに低く、語学習得に関しては弱いことが読み取れる。

図表 2-16 修得した知識や能力×活用の度合い



Q. 学生時代に身についたことをお答えください。（それぞれ1つ選択）

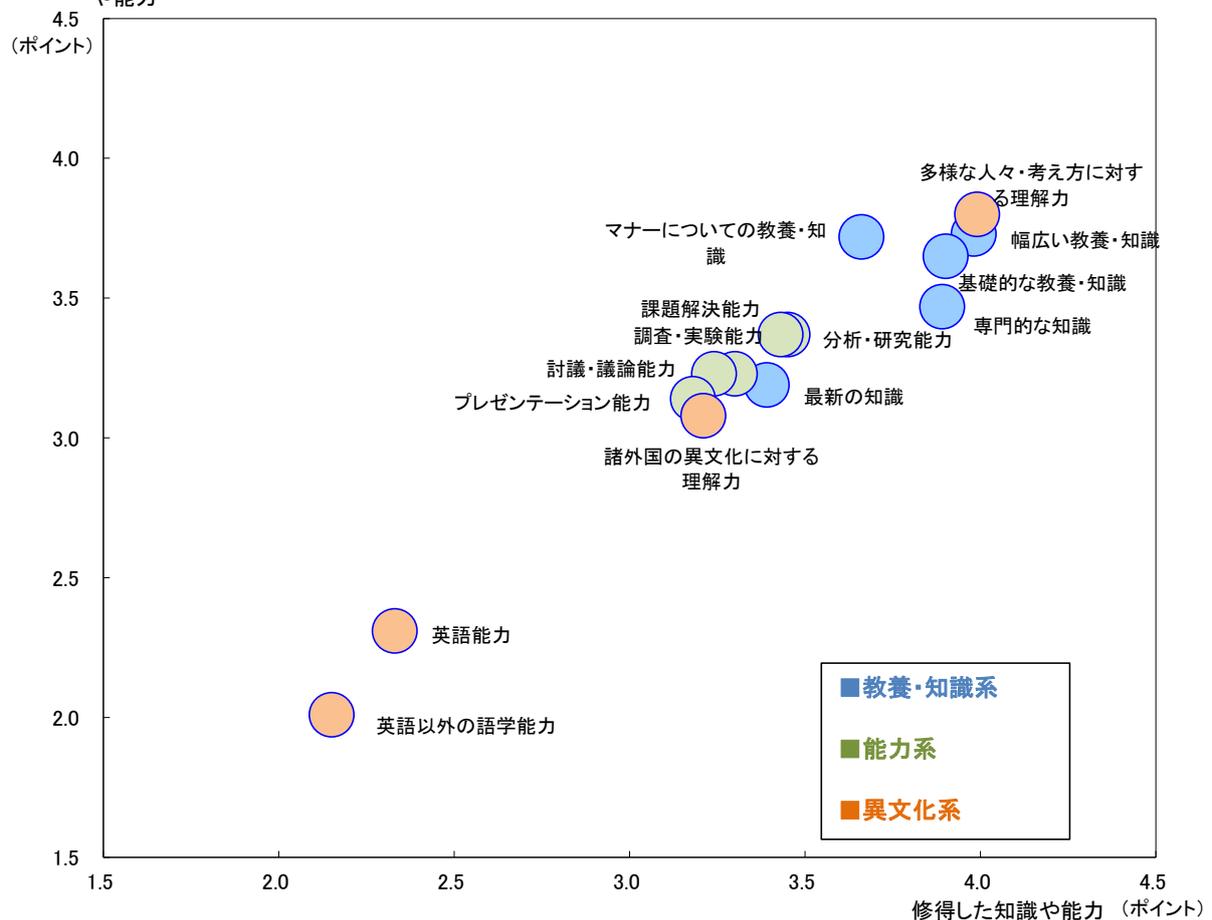
1. 大いに身についた 2. どちらかというと思身についた 3. どちらともいえない
4. どちらかというと思身につかなかった 5. 身につかなかった

Q. 学生時代に修得したと思われる知識や能力のうち、現在に活かされているものをお答えください。（それぞれ1つ選択）

1. とてもよく活かされている 2. どちらかといえば活かされている
3. どちらともいえない 4. どちらかといえば活かされていない
5. 活かされていない

[参考] 平成 28 年度 第 1 回卒業生調査

現在活かされている知識
や能力



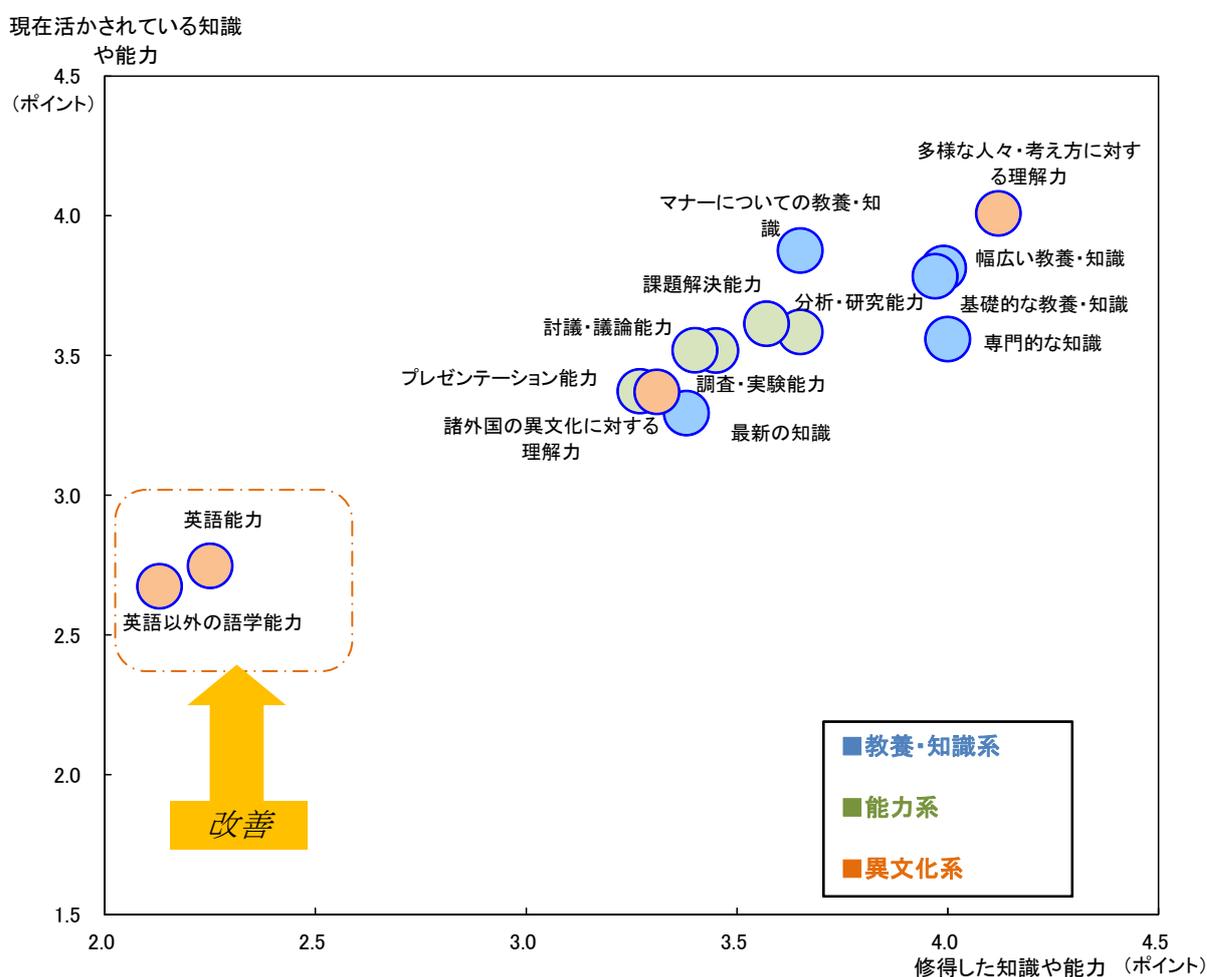
(2) 修得した知識や能力×活用の度合い（「身に付かなかった」を除く）

習得していない能力については、活かしようがないという考え方もあるため、「身に付かなかった」と回答した学生を除いて再集計を試みた。

前ページのグラフと比較すると、「英語能力」、「英語以外の語学能力」が大きく上昇し、「諸外国の異文化に対する理解力」も上昇していることが読み取れる。

職場や生活環境にもよるので、学修したすべてが役立つわけではないだろうが、学修した方が学修しない場合よりも知識や能力を生かす機会が広がることを示している。

図表 2-17 修得した知識や能力×活用の度合い（「身に付かなかった」を除く）



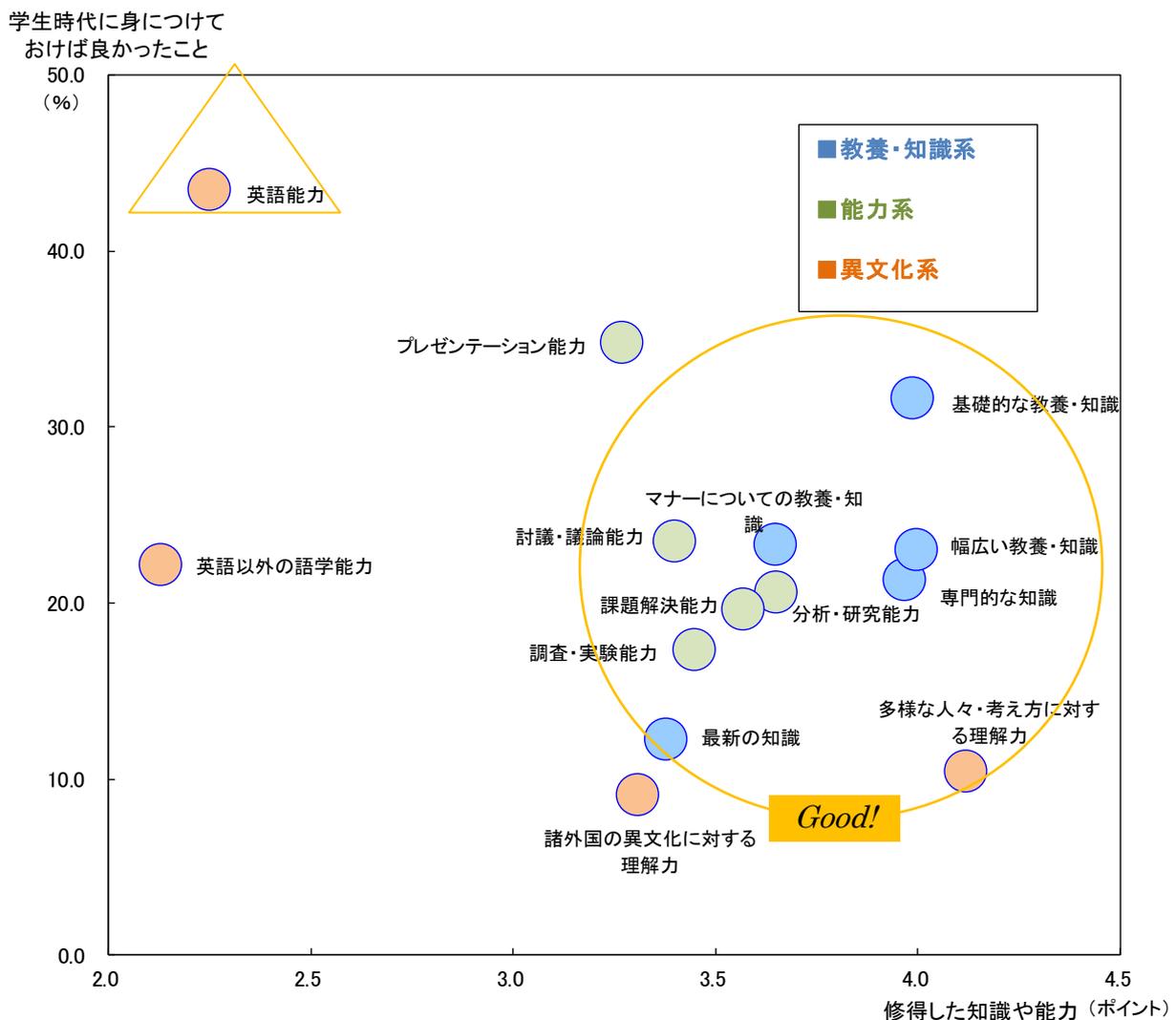
(3) 修得した知識や能力×活用の度合い

「学生時代に修得した知識や能力」は加重平均、「大学時代に身につけておけばよかったこと」は複数回答の回答割合である。概ね「修得した知識や能力」ほど「大学時代に身につけておけば良かった」という割合は低く、負の相関がみられる。

大きな分野でみると、教養・知識系は概ね「学生時代に身につけた」という割合も高い一方、異文化系の中でも特に「英語能力」については自信がない卒業生が多くみられる。「英語以外の語学能力」も習得はしていないものの、必要性はあまり感じていない。

能力系のうち「プレゼンテーション能力」については、「分析・研究能力」や「調査・実験能力」などよりも必要性を感じている卒業生が多い。

図表 2-18 修得した知識や能力×身につけておけばよかったもの



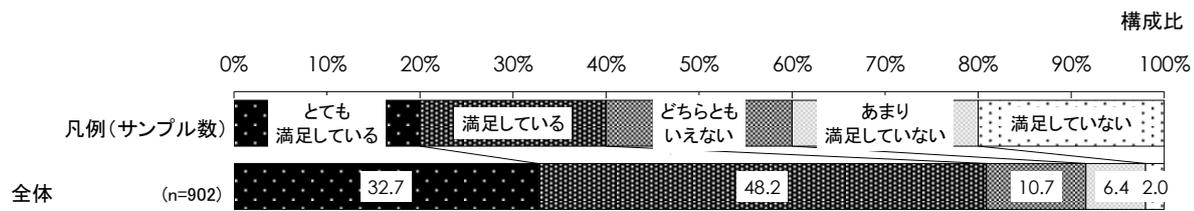
7. 満足度とその理由（不明を除く）

本学に「とても満足している」と「満足している」を合わせた割合は 80.9%、一方、「あまり満足していない」と「満足していない」を合わせた割合は 8.4%で、『満足』が『不満足』を大きく上回っている。

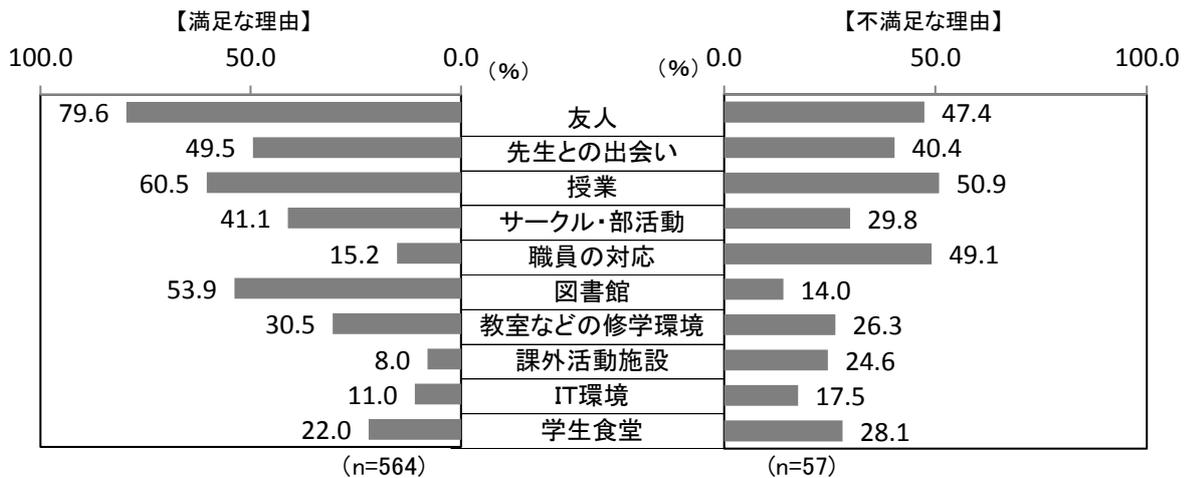
満足の理由と不満足の理由を比較すると、満足の方では「友人（との出会いがあった）」が 79.6%で最も高くなっているのに対し、不満足の場合は友人よりもむしろ「授業（が面白くなかった）」が 50.9%となっている。

「図書館」は満足度を高めるのに寄与し、不満理由にあげる割合は 14.0%と少ない。一方、「職員の対応」は 15.2%で、満足度を高める理由にはなりにくい、不満の原因になりやすく「職員の対応が不適切であった」は 49.1%と高くなっている。

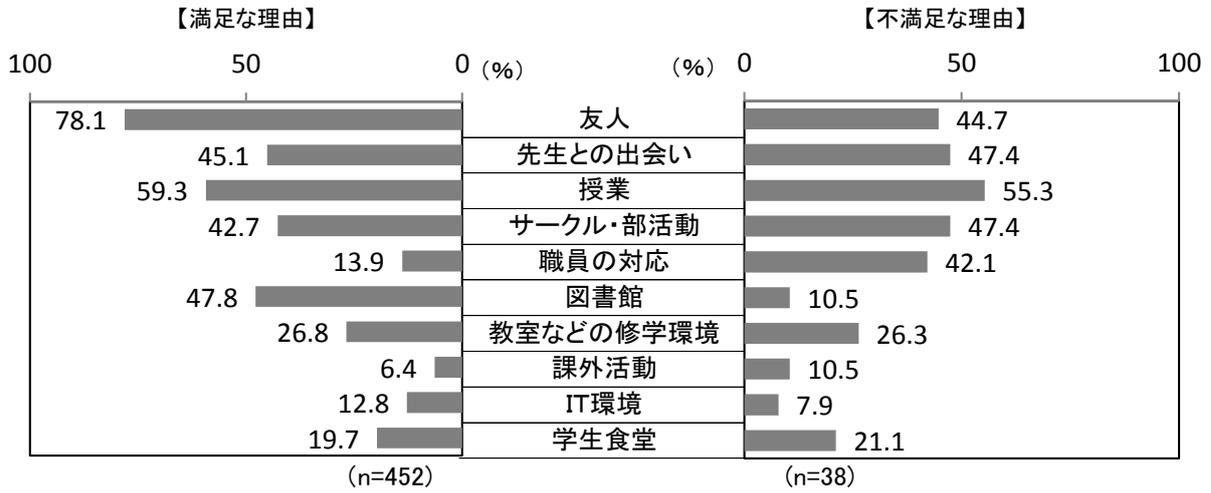
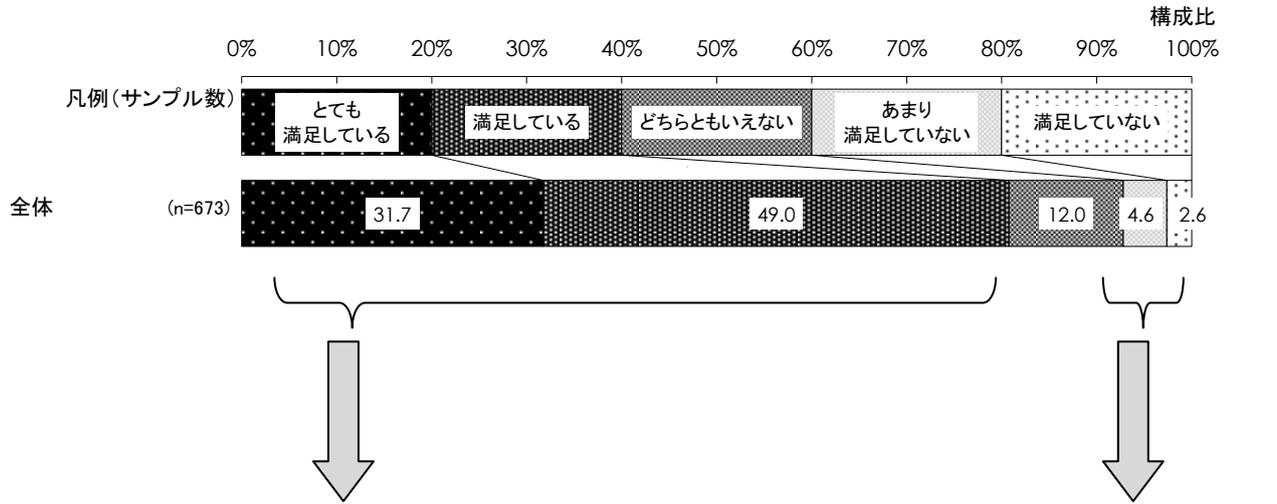
図表 2-19 本学に対する総合的な満足度



図表 2-20 満足・不満足の理由



[参考] 平成 28 年度 第 1 回卒業生調査

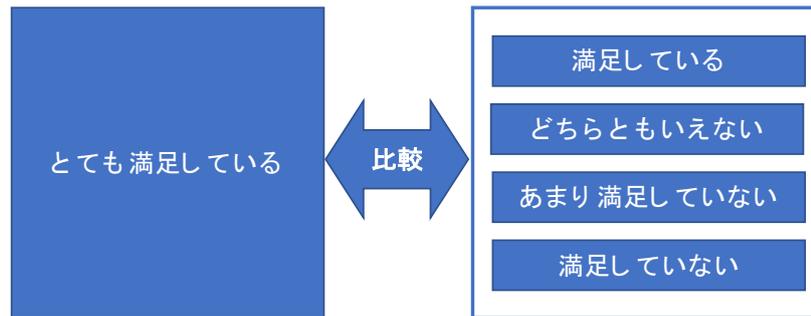


8. 総合満足度に貢献する項目の考察

(1) 分析の視点

本学に対する総合的な満足度について「とても満足している」と回答した卒業生に注目し、基本属性や学生時代の学修の取り組みなど、何が総合満足度に影響しているか分析を試みる。

図表 2-21 分析の視点



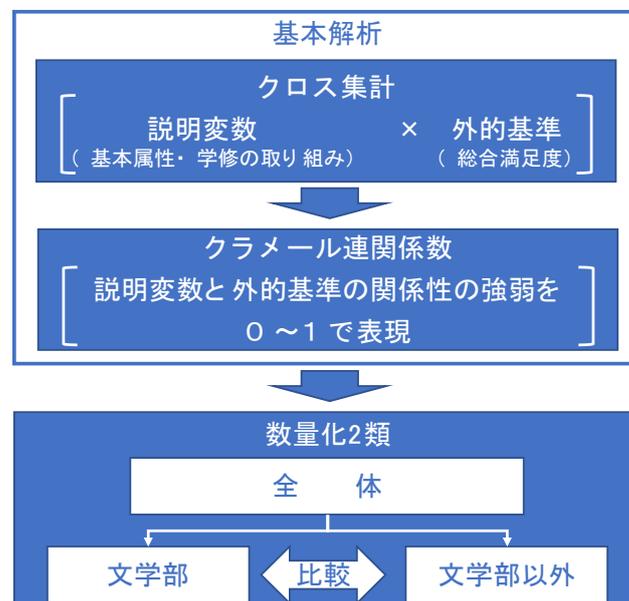
(2) 分析方法

性別や取り組みの程度など、定性的データを説明変数に用いる一方、外的基準についても、「とても満足している」と「それ以外（満足している、どちらともいえない、あまり満足していない、満足していない）」の二択の定性データを用いて分析を試みる。このため、定性的な情報を扱う数量化Ⅱ類という方法を用いる。

数量化Ⅱ類による分析の前に基本解析を行い、外的基準と説明変数の関係を調べる。具体的にはクロス集計とクラメール連関係数から外的基準と関係している説明変数は何かを検討する。

さらに、詳細は後述するが、文学部と文学部以外の学部では総合満足度に差があることから、両者を比較分析し、違いの背景について考察する。

図表 2-22 分析方法の流れ



(3) 分析その1 (基本解析)

クロス集計によると、女性よりも男性の方が満足度が高く、卒業年度は古いほど満足度が低く（ただし平成26年度は下落）、学部では文学部が他の学部よりも高い。また学生時代の学修の取り組みは、おおむね熱心に取り組むほど満足度が高い。

クラメール連関係数は0から1の間の値を示し、1に近いほど満足度との関係が近いことを示している。クラメール連関係数はいくつ以上であれば有効という基準はないが、0.25前後から関係性が読み取れるとするケースが多い。本調査結果より、0.2以上を示した項目に注目すると「卒業論文・ゼミ活動」0.25、「教養科目（神道科目／外国語を除く）」0.24、「専門教育科目」0.24、「神道科目」0.21であり、これらの科目等は、満足度に作用している可能性が伺える。

これら基本解析を踏まえたうえで、数量化Ⅱ類の分析を行う。

図表2-23 クロス集計

		総合満足度（再集計）		
		合計	とても満足している	『とても満足』以外
全体		701	229	472
		100.0	32.7	67.3
性別	男性	100.0	33.8	66.2
	女性	100.0	31.5	68.5
卒業年度	平成18年度	100.0	26.6	73.4
	平成23年度	100.0	35.1	64.9
	平成25年度	100.0	35.8	64.2
	平成26年度	100.0	31.5	68.5
卒業学部・学科（再カテ）	文学部	100.0	38.9	61.1
	法学部	100.0	25.0	75.0
	経済学部	100.0	24.0	76.0
	神道文化学部	100.0	32.1	67.9
	人間開発学部	100.0	31.7	68.3
学生時代の学修等への取組状況__神道科目	熱心に取り組んだ	100.0	54.8	45.2
	どちらかといえば熱心に取り組んだ	100.0	36.5	63.5
	どちらともいえない	100.0	32.6	67.4
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった	100.0	21.4	78.6
	熱心に取り組まなかった・行っていない	100.0	23.2	76.8
学生時代の学修等への取組状況__外国語科目	熱心に取り組んだ	100.0	47.0	53.0
	どちらかといえば熱心に取り組んだ	100.0	32.4	67.6
	どちらともいえない	100.0	30.9	69.1
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった	100.0	28.6	71.4
	熱心に取り組まなかった・行っていない	100.0	31.6	68.4
学生時代の学修等への取組状況__教養科目（神道科目/外国語を除く）	熱心に取り組んだ	100.0	49.3	50.7
	どちらかといえば熱心に取り組んだ	100.0	31.9	68.1
	どちらともいえない	100.0	30.6	69.4
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった	100.0	8.0	92.0
	熱心に取り組まなかった・行っていない	100.0	7.7	92.3

図表 2-24 クロス集計 (つづき)

		総合満足度 (再集計)		
		合計	とても満足している	『とても満足』以外
学生時代の学修等への取組状況_専門教育科目	熱心に取り組んだ	100.0	45.7	54.3
	どちらかといえば熱心に取り組んだ	100.0	23.7	76.3
	どちらともいえない	100.0	24.4	75.6
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった	100.0	20.0	80.0
	熱心に取り組まなかった・行っていない	100.0	15.8	84.2
学生時代の学修等への取組状況_演習・実習	熱心に取り組んだ	100.0	43.9	56.1
	どちらかといえば熱心に取り組んだ	100.0	28.3	71.7
	どちらともいえない	100.0	26.0	74.0
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった	100.0	15.2	84.8
	熱心に取り組まなかった・行っていない	100.0	22.1	77.9
学生時代の学修等への取組状況_卒業論文・ゼミ活動 (ゼミ論等)	熱心に取り組んだ	100.0	45.8	54.2
	どちらかといえば熱心に取り組んだ	100.0	24.6	75.4
	どちらともいえない	100.0	20.3	79.7
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった	100.0	10.9	89.1
	熱心に取り組まなかった・行っていない	100.0	28.2	71.8
学生時代の学修等への取組状況_インターンシップ	熱心に取り組んだ	100.0	37.2	62.8
	どちらかといえば熱心に取り組んだ	100.0	22.2	77.8
	どちらともいえない	100.0	44.7	55.3
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった	100.0	16.7	83.3
	熱心に取り組まなかった・行っていない	100.0	32.5	67.5
学生時代の学修等への取組状況_教職・資格関係科目	熱心に取り組んだ	100.0	46.9	53.1
	どちらかといえば熱心に取り組んだ	100.0	28.1	71.9
	どちらともいえない	100.0	27.4	72.6
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった	100.0	15.0	85.0
	熱心に取り組まなかった・行っていない	100.0	27.5	72.5
学生時代の学修等への取組状況_留学	熱心に取り組んだ	100.0	32.3	67.7
	どちらかといえば熱心に取り組んだ	100.0	13.3	86.7
	どちらともいえない	100.0	42.1	57.9
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった	100.0	16.7	83.3
	熱心に取り組まなかった・行っていない	100.0	33.0	67.0
学生時代の学修等への取組状況_サークル・部活動	熱心に取り組んだ	100.0	42.6	57.4
	どちらかといえば熱心に取り組んだ	100.0	28.2	71.8
	どちらともいえない	100.0	25.4	74.6
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった	100.0	23.3	76.7
	熱心に取り組まなかった・行っていない	100.0	29.8	70.2
学生時代の学修等への取組状況_アルバイト	熱心に取り組んだ	100.0	38.8	61.2
	どちらかといえば熱心に取り組んだ	100.0	31.3	68.7
	どちらともいえない	100.0	30.5	69.5
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった	100.0	25.4	74.6
	熱心に取り組まなかった・行っていない	100.0	27.3	72.7
学生時代の学修等への取組状況_社会活動 (ボランティア等)	熱心に取り組んだ	100.0	42.4	57.6
	どちらかといえば熱心に取り組んだ	100.0	30.4	69.6
	どちらともいえない	100.0	34.1	65.9
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった	100.0	34.5	65.5
	熱心に取り組まなかった・行っていない	100.0	31.2	68.8

■カテゴリーで最大 ■カテゴリーで最小

図表 2-25 クラメール連関係数

性別	0.02
卒業年度	0.07
卒業学部・学科(再カテ)	0.14
学生時代の学修等への取組状況 神道科目	0.21
学生時代の学修等への取組状況 外国語科目	0.12
学生時代の学修等への取組状況 教養科目(神道科目/外国語を除く)	0.24
学生時代の学修等への取組状況 専門教育科目	0.24
学生時代の学修等への取組状況 演習・実習	0.20
学生時代の学修等への取組状況 卒業論文・ゼミ活動(ゼミ論等)	0.25
学生時代の学修等への取組状況 インターンシップ	0.10
学生時代の学修等への取組状況 教職・資格関係科目	0.19
学生時代の学修等への取組状況 留学	0.08
学生時代の学修等への取組状況 サークル・部活動	0.15
学生時代の学修等への取組状況 アルバイト	0.10
学生時代の学修等への取組状況 社会活動(ボランティア等)	0.07

0.20以上に赤

(4) 数量化Ⅱ類の表の見方

たとえば、性別では男性のスコアは 0.20 点、女性は-0.21 点で、「とても満足している」割合が高い男性の方に高い点が与えられている。この得点を「カテゴリースコア」と呼び、外的基準と関係が強いほどスコアの得点も高くなる。

アイテム内のカテゴリースコアの最大値と最小値の間の距離を「レンジ」という。レンジのレンジ合計に占める割合を寄与率とよぶ。レンジや寄与率が大きい項目ほど、また偏相関係数が大きいほど、外的基準への影響度が大きい重要な項目といえる。

(5) 分析その2 (数量化Ⅱ類)

ア レンジと寄与率からみた総合満足度に影響する項目

レンジが大きいアイテムは「教養科目(神道科目/外国語を除く)」1.58点、「卒業論文・ゼミ活動(ゼミ論等)」1.29点、「神道科目」1.00点などとなっており、寄与率はそれぞれ15%、12%、9%である。

「教養科目」、「卒業論文・ゼミ活動(ゼミ論等)」、「神道科目」は、クramer係数においても高い数値を示しており、改めて総合満足度との関係が深いことが確認された。

イ 卒業学部の違いによる総合満足度のギャップ

卒業学部に注目すると、文学部の卒業生だけがプラスで、他の法学部、経済学部、神道文化学部、人間開発学部の卒業生はすべてマイナスであった。この結果はすでに学部選択の時点でギャップが生じている可能性が示唆される。

本学の卒業生の満足度を高めるために、今後いろいろな取り組みが展開される必要があるが、そもそも学部選択のスタート時点で満足度が毀損しているとすれば、カリキュラムの充実もさることながら、入学前からのイメージ変革なども視野にいれた取り組みを検討する必要があるであろう。

なお、学部間のギャップについてさらに深く掘り下げるため、後段では全体分析につづいて文学部と文学部以外の学部にかけて、総合満足度に影響する要因についてみていく。

ウ 取り組み損のカリキュラムの存在

クロス集計分析において、おおむね熱心に取り組むほど、とても満足という割合が高くなる傾向があることに触れたが、いくつかの科目等においては、逆に作用しているものもみられる。すなわち、熱心に取り組んだのに総合満足度は下げるほうに作用し、熱心に取り組まなかったことで総合満足度を高めることにつながっている。具体的には「社会活動(ボランティア等)」や「演習・実習」が該当し、「総合満足度を高めたいければ、ボランティアも演習・実習も受けさせないほうがよい」ということになる。

こうしたネガティブな結果を生じさせている科目等についても、文学部と文学部以外の学部の違い別に分析を行う。

図表 2-26 数量化Ⅱ類による総合満足度への貢献状況（全学部）

アイテム名	カテゴリー名	カテゴリースコア					スコア	最小値 最大値	レンジ	寄与率	偏相関 係数
		-1.50	-1.00	-0.50	0.00	0.50					
性別	男性						0.20	0.20	0.41	4%	0.10
	女性						-0.21	-0.21			
卒業年度	平成18年度						-0.27	0.14	0.41	4%	0.07
	平成23年度						-0.01	-0.27			
	平成25年度						0.14				
	平成26年度						0.06				
卒業学部	文学部						0.25	0.25	0.52	5%	0.11
	法学部						-0.28	-0.28			
	経済学部						-0.25				
	神道文化学部						-0.23				
	人間開発学部						-0.13				
学生時代の学修等への取組状況__神道科目	熱心に取り組んだ						0.55	0.55	1.00	9%	0.15
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						0.21	-0.45			
	どちらともいえない						0.07				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						-0.45				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						-0.35				
学生時代の学修等への取組状況__外国語科目	熱心に取り組んだ						0.16	0.45	0.56	5%	0.08
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						-0.11	-0.11			
	どちらともいえない						-0.10				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						0.00				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						0.45				
学生時代の学修等への取組状況__教養科目（神道科目/外国語を除く）	熱心に取り組んだ						0.37	0.37	1.58	15%	0.18
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						-0.01	-1.20			
	どちらともいえない						0.22				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						-1.03				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						-1.20				
学生時代の学修等への取組状況__専門教育科目	熱心に取り組んだ						0.20	0.20	0.41	4%	0.09
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						-0.21	-0.21			
	どちらともいえない						-0.01				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						0.14				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						-0.16				
学生時代の学修等への取組状況__演習・実習	熱心に取り組んだ						-0.04	0.25	0.29	3%	0.03
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						-0.04	-0.04			
	どちらともいえない						0.03				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						0.25				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						0.11				

図表 2-27 数量化Ⅱ類による総合満足度への貢献状況（全学部） つづき

アイテム名	カテゴリー名	カテゴリースコア					スコア	最小値 最大値	レンジ	寄与率	偏相関 係数
		-1.50	-1.00	-0.50	0.00	0.50					
学生時代の学修等への取組状況__卒業論文・ゼミ活動（ゼミ論等）	熱心に取り組んだ						0.42	0.42	1.29	12%	0.19
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						-0.35	-0.87			
	どちらともいえない						-0.36				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						-0.87				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						0.05				
学生時代の学修等への取組状況__インターンシップ	熱心に取り組んだ						0.14	0.57	0.97	9%	0.09
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						-0.40	-0.40			
	どちらともいえない						0.57				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						-0.06				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						-0.03				
学生時代の学修等への取組状況__教職・資格関係科目	熱心に取り組んだ						0.22	0.22	0.91	8%	0.08
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						-0.13	-0.69			
	どちらともいえない						-0.07				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						-0.69				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						-0.03				
学生時代の学修等への取組状況__留学	熱心に取り組んだ						-0.03	0.22	0.29	3%	0.02
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						0.22	-0.07			
	どちらともいえない						-0.07				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						0.03				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						0.00				
学生時代の学修等への取組状況__サークル・部活動	熱心に取り組んだ						0.43	0.43	0.80	7%	0.15
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						-0.19	-0.37			
	どちらともいえない						-0.36				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						-0.37				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						-0.12				
学生時代の学修等への取組状況__アルバイト	熱心に取り組んだ						0.26	0.26	0.64	6%	0.12
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						0.05	-0.37			
	どちらともいえない						-0.13				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						-0.37				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						-0.36				
学生時代の学修等への取組状況__社会活動（ボランティア等）	熱心に取り組んだ						-0.20	0.52	0.75	7%	0.09
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						-0.22	-0.22			
	どちらともいえない						-0.21				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						0.52				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						0.04				
合計								10.83	100%	—	

(6) 文学部の分析

ア 基本属性

性別・卒業年度の回答の傾向は全体と同様で、性別では男性が高く、卒業年度では平成 18 年度が低く、平成 25 年度が高い。

イ 文学部におけるレンジと寄与率からみた総合満足度に影響する項目

文学部においてレンジが大きいアイテムは「インターンシップ」2.09 点、「教養科目（神道科目/外国語を除く）」1.86 点、「卒業論文・ゼミ活動（ゼミ論等）」1.76 点などとなっており、寄与率はそれぞれ 15%、13%、12%である。

「教養科目（神道科目/外国語を除く）」と「卒業論文・ゼミ活動（ゼミ論等）」は全体と同じ傾向だが、「インターンシップ」については傾向が異なる。さらに、「インターンシップ」のカテゴリースコアに注目すると、熱心に取り組むほど総合満足度が下がり、逆に熱心に取り組まないほうが総合満足度が上がるネガティブな回答結果となっている。

ウ 文学部における取り組み損のカリキュラムの存在

一般的には、熱心に学修活動に取り組むことが、総合満足度を高めることにつながる傾向がある中で、前述の「インターンシップ」のように、熱心に取り組んでいるほど総合満足度が下がったり、取り組まないほうが総合満足度を高めるほうに影響する科目等がある。

具体的には「外国語科目」は熱心に取り組まなかったり、行っていないほうが総合満足度が高くなっているほか、「演習・実習」は、熱心に取り組んだという回答者が総合満足度をマイナスにする傾向がある一方、どちらかといえば熱心にとりくまなかった方が、総合満足度を伸ばす傾向となっている。

文学部と全体と比較すると、「演習・実習」については同様の結果となる一方、「インターンシップ」と「外国語科目」については、全体傾向とは異なる文学部特有の傾向となっている。これらの科目等に苦手意識をもつ学生においては、苦手な授業の指導が厳しくない、もしくは苦手な授業が少ないことが、総合満足度につながっているという可能性も考えられる。

図表 2-28 数量化Ⅱ類による総合満足度への貢献状況（文学部）

アイテム名	カテゴリー名	カテゴリースコア					スコア	最小値 最大値	レンジ	寄与率	偏相関 係数
		-1.50	-1.00	-0.50	0.00	0.50					
性別	男性						0.09	0.20	0.41	3%	0.04
	女性						-0.06	-0.21			
卒業年度	平成18年度						-0.38	0.13	0.51	4%	0.10
	平成23年度						0.04	-0.38			
	平成25年度						0.13				
	平成26年度						0.08				
学生時代の学修等への取組状況__神道科目	熱心に取り組んだ						0.41	0.41	0.92	6%	0.17
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						0.03	-0.51			
	どちらともいえない						0.28				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						-0.51				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						-0.35				
学生時代の学修等への取組状況__外国語科目	熱心に取り組んだ						0.35	0.53	0.71	5%	0.11
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						-0.05	-0.18			
	どちらともいえない						-0.18				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						-0.08				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						0.53				
学生時代の学修等への取組状況__教養科目（神道科目/外国語を除く）	熱心に取り組んだ						0.14	0.45	1.86	13%	0.20
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						-0.01	-1.41			
	どちらともいえない						0.45				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						-1.02				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						-1.41				
学生時代の学修等への取組状況__専門教育科目	熱心に取り組んだ						0.12	0.32	0.59	4%	0.11
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						-0.27	-0.27			
	どちらともいえない						0.29				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						0.32				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						0.05				
学生時代の学修等への取組状況__演習・実習	熱心に取り組んだ						-0.05	1.10	1.21	8%	0.12
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						-0.08	-0.11			
	どちらともいえない						-0.11				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						1.10				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						0.47				

図表 2-29 数量化Ⅱ類による総合満足度への貢献状況（文学部） つづき

アイテム名	カテゴリー名	カテゴリースコア					スコア	最小値 最大値	レンジ	寄与率	偏相関 係数
		-1.50	-1.00	-0.50	0.00	0.50					
学生時代の学修等への取組状況_卒業論文・ゼミ活動（ゼミ論等）	熱心に取り組んだ						0.56	0.56	1.76	12%	0.28
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						-0.39	-1.19			
	どちらともいえない						-0.36				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						-1.19				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						-0.32				
学生時代の学修等への取組状況_インターンシップ	熱心に取り組んだ						-0.79	1.30	2.09	15%	0.11
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						-0.44	-0.79			
	どちらともいえない						0.13				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						1.30				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						0.01				
学生時代の学修等への取組状況_教職・資格関係科目	熱心に取り組んだ						0.23	0.49	1.12	8%	0.16
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						-0.10	-0.62			
	どちらともいえない						0.49				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						-0.62				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						-0.38				
学生時代の学修等への取組状況_留学	熱心に取り組んだ						0.14	0.34	1.42	10%	0.07
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						-0.60	-1.08			
	どちらともいえない						0.34				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						-1.08				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						0.00				
学生時代の学修等への取組状況_サークル・部活動	熱心に取り組んだ						0.24	0.24	0.73	5%	0.11
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						0.06	-0.49			
	どちらともいえない						-0.49				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						-0.05				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						-0.13				
学生時代の学修等への取組状況_アルバイト	熱心に取り組んだ						0.19	0.19	0.63	4%	0.11
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						0.08	-0.43			
	どちらともいえない						-0.21				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						-0.43				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						0.00				
学生時代の学修等への取組状況_社会活動（ボランティア等）	熱心に取り組んだ						0.15	0.15	0.30	2%	0.04
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						-0.13	-0.15			
	どちらともいえない						-0.15				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						-0.01				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						0.03				
合計									14.26	100%	—

(7) 文学部以外（法学部、経済学部、神道文化学部、人間発達学部）の分析

ア 基本属性

性別・卒業年度の回答の傾向は全体・文学部と同様で、性別では男性が高く、卒業年度では平成18年度が低く、平成25年度が高い。

イ 文学部以外の学部におけるレンジと寄与率からみた総合満足度に影響する項目

文学部以外の学部においてレンジが大きいアイテムは「教養科目（神道科目/外国語を除く）」1.56点、「インターンシップ」1.30点、「社会活動（ボランティア等）」1.28点などとなっており、寄与率はそれぞれ13%、11%、11%である。

全体と比較すると、「教養科目（神道科目/外国語を除く）」が高い点は共通している。また文学部と比較しても「教養科目（神道科目/外国語を除く）」が高い点は共通している。

ウ 文学部以外の学部における取り組み損のカリキュラムの存在

熱心に取り組んでいるほど総合満足度が下がったり、取り組まないほうが総合満足度を高めるほうに影響する科目等は「外国語科目」、「留学」、「社会活動（ボランティア等）」である。

文学部と比較すると、ともに「外国語科目」が挙げられている点が共通している。外国語や留学はグローバル社会とのつながる機会であり、社会活動は文字通り、大学の外の社会を知る機会であることから、大学構内から飛び出して社会を知ったり、社会の中で学ぶ経験に対し、苦手意識や敬遠する心理が強い可能性がある。

図表 2-30 数量化Ⅱ類による総合満足度への貢献状況（文学部以外の学部）

アイテム名	カテゴリ名	カテゴリースコア					スコア	最小値 最大値	レンジ	寄与率	偏相関 係数
		-1.50	-1.00	-0.50	0.00	0.50					
性別	男性						0.16	0.20	0.41	3%	0.12
	女性						-0.28	-0.21			
卒業年度	平成18年度						-0.30	0.21	0.51	4%	0.10
	平成23年度						-0.09	-0.30			
	平成25年度						0.21				
	平成26年度						0.08				
学生時代の学修等への取組状況__神道科目	熱心に取り組んだ						0.70	0.70	1.02	8%	0.19
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						0.34	-0.32			
	どちらともいえない						-0.17				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						-0.32				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						-0.31				
学生時代の学修等への取組状況__外国語科目	熱心に取り組んだ						0.05	0.20	0.47	4%	0.09
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						-0.27	-0.27			
	どちらともいえない						0.01				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						0.13				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						0.20				
学生時代の学修等への取組状況__教養科目（神道科目/外国語を除く）	熱心に取り組んだ						0.62	0.62	1.56	13%	0.20
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						0.00	-0.94			
	どちらともいえない						-0.01				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						-0.94				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						-0.66				
学生時代の学修等への取組状況__専門教育科目	熱心に取り組んだ						0.30	0.30	0.50	4%	0.12
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						-0.16	-0.20			
	どちらともいえない						-0.19				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						0.20				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						-0.20				
学生時代の学修等への取組状況__演習・実習	熱心に取り組んだ						-0.03	0.20	0.46	4%	0.06
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						0.00	-0.26			
	どちらともいえない						0.20				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						-0.26				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						-0.06				

図表 2-3-1 数量化Ⅱ類による総合満足度への貢献状況（文学部以外の学部） つづき

アイテム名	カテゴリー名	カテゴリースコア					スコア	最小値 最大値	レンジ	寄与率	偏相関 係数
		-1.50	-1.00	-0.50	0.00	0.50					
学生時代の学修等への取組状況_卒業論文・ゼミ活動（ゼミ論等）	熱心に取り組んだ						0.14	0.21	0.68	6%	0.11
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						-0.17	-0.48			
	どちらともいえない						-0.27				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						-0.48				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						0.21				
学生時代の学修等への取組状況_インターンシップ	熱心に取り組んだ						0.35	1.00	1.30	11%	0.17
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						-0.12	-0.31			
	どちらともいえない						1.00				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						-0.31				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						-0.14				
学生時代の学修等への取組状況_教職・資格関係科目	熱心に取り組んだ						0.09	0.10	0.50	4%	0.10
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						-0.18	-0.39			
	どちらともいえない						-0.39				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						-0.39				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						0.10				
学生時代の学修等への取組状況_留学	熱心に取り組んだ						-0.40	0.68	1.08	9%	0.09
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						0.68	-0.40			
	どちらともいえない						-0.31				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						0.68				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						0.00				
学生時代の学修等への取組状況_サークル・部活動	熱心に取り組んだ						0.64	0.64	1.19	10%	0.24
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						-0.46	-0.55			
	どちらともいえない						-0.39				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						-0.55				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						-0.08				
学生時代の学修等への取組状況_アルバイト	熱心に取り組んだ						0.29	0.29	1.03	9%	0.17
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						0.02	-0.74			
	どちらともいえない						-0.06				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						-0.15				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						-0.74				
学生時代の学修等への取組状況_社会活動（ボランティア等）	熱心に取り組んだ						-0.39	0.89	1.28	11%	0.17
	どちらかといえば熱心に取り組んだ						-0.26	-0.39			
	どちらともいえない						-0.12				
	どちらかといえば熱心に取り組まなかった						0.89				
	熱心に取り組まなかった・行っていない						0.01				
合計								11.98	100%	—	

(8) まとめ

ア 文学部とその他の学部の総合満足度に差

文学部の総合満足度が高い理由については、偏相関係数からみていく。文学部は高い方から「卒業論文・ゼミ活動（ゼミ論等）」0.28、「教養科目（神道科目・外国語を除く）」0.20、「神道科目」0.17などの順となっている。一方、文学部以外では「サークル・部活動」0.24、「教養科目（神道科目・外国語を除く）」0.20、「神道科目」0.19などの順となっている。比較すると、総合満足度に最も貢献する科目等は、文学部が「卒業論文・ゼミ活動（ゼミ論等）」であるのに対し、文学部以外の学部は「サークル・部活動」という結果が示すように、大学が提供する価値という観点では、総合満足度に学部間の格差が生じることは必然といえる。

したがって、文学部とその他の学部の格差を埋め、総合満足度を高めるためには、文学部以外の学部において、卒業論文・ゼミ活動（ゼミ論等）の内容充実が課題と考えられる。

図表 2-32 文学部と文学部以外の偏相関係数の比較

変数名	文学部	文学部以外
1 性別	0.04	0.12
2 卒業年度	0.10	0.10
3 学生時代の学修等への取組状況__神道科目	0.17	0.19
4 学生時代の学修等への取組状況__外国語科目	0.11	0.09
5 学生時代の学修等への取組状況__教養科目（神道科目/外国語を除く）	0.20	0.20
6 学生時代の学修等への取組状況__専門教育科目	0.11	0.12
7 学生時代の学修等への取組状況__演習・実習	0.12	0.06
8 学生時代の学修等への取組状況__卒業論文・ゼミ活動（ゼミ論等）	0.28	0.11
9 学生時代の学修等への取組状況__インターンシップ	0.11	0.17
10 学生時代の学修等への取組状況__教職・資格関係科目	0.16	0.10
11 学生時代の学修等への取組状況__留学	0.07	0.09
12 学生時代の学修等への取組状況__サークル・部活動	0.11	0.24
13 学生時代の学修等への取組状況__アルバイト	0.11	0.17
14 学生時代の学修等への取組状況__社会活動（ボランティア等）	0.04	0.17

イ 学修の取り組みと総合満足度の矛盾

学修プログラムは、その取り組みを通じて満足感を獲得し、更なる成長へと正のスパイラルを描くことが期待されており、実際多くの科目等はそうした結果が得られている。ところが一部の科目等については、学修することが必ずしも満足度の獲得にいたらず、むしろ回避することが満足度につながっていると思われるものがみられる。

具体的には、文学部であれば「インターンシップ」、「外国語科目」、「演習・実習」であり、文学部以外の学部では「外国語科目」、「留学」、「社会活動（ボランティア等）」が該当する。学部

による違いはあるものの、学外での学びの機会を敬遠する点に、本学の学生気質の共通性があるように推察される。

なお、こうした科目等が問題となるのは、裏返せば通常構内で行われる教養科目などが、一定水準に達しているからこそその新しい課題という見方もでき、次のステージにむけた発展課題といえる。苦手領域を克服するのか、それとも得意領域に注力するのかは、個人の生き方の選択であるが、これからどのような仕事に就くのか未知数の学生にとっては、安易に苦手な領域を避けるのではなく、様々な学びを通して基礎力を蓄えることが重要ではないかと考えられる。

